

Panasonic®



AV コントロールアンプ 取扱説明書

品番 **SA-DX930**



上手に使って上手に節電

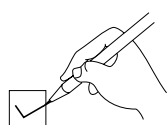
保証書別添付

このたびは、AV コントロールアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保存し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

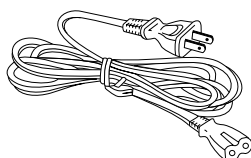
RQT5085-S

付属品の確認



設置・接続のまえに、まず付属品を確かめてください。

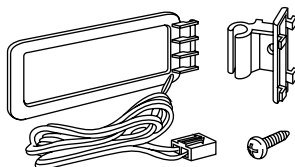
☐ 電源コード (1 本)



(RJA0050-K)

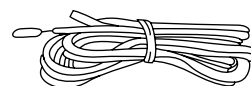
☐ AM ループアンテナセット (1 組)

- AM ループアンテナ
- アンテナホルダー
- 取り付けネジ



(RSA0010)

☐ FM 簡易型アンテナ (1 本)



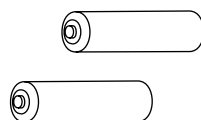
(RSA0006)

☐ リモコン (1 個)



(EUR647104)

☐ リモコン用乾電池 (2 個)

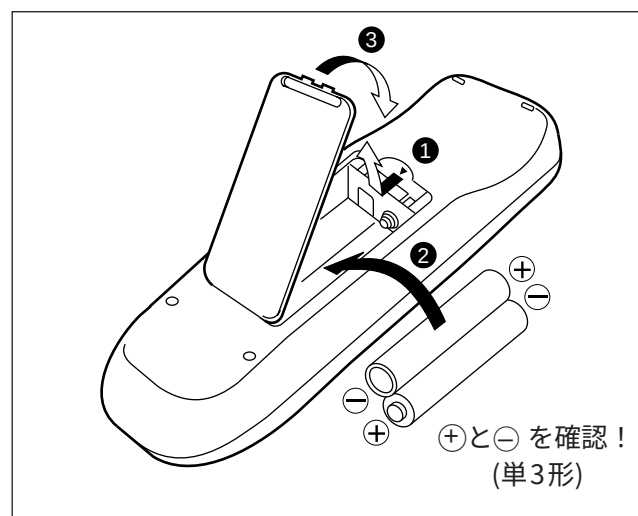


付属品の買い替えは、お買上げの販売店にご相談ください。

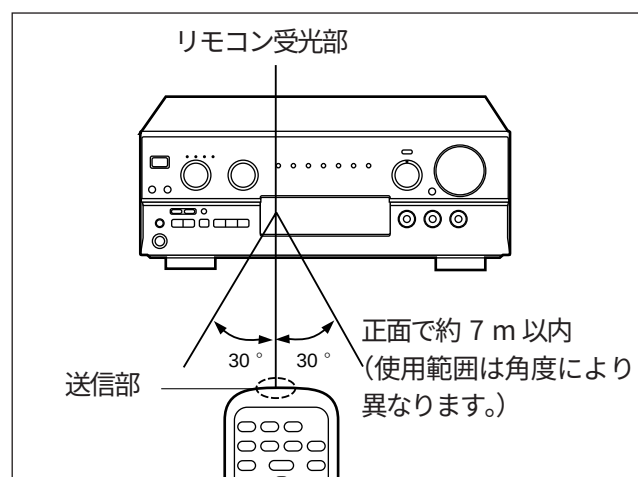
カッコ () 内は買い替え時の品番です。

リモコンの準備

乾電池の入れかた



リモコンの使いかた



使用上のお願い

- 受光部とリモコンの間に障害物は置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部とリモコンの先端のほこりに注意。

故障防止のために

- 分解、改造をしない。
- 重いものを載せない。
- 直射日光の当たるところに放置しない。
- ジュースなど液状のものをこぼさない。

本体をラックに入れて使用する時

ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

もくじ

まず 準備と確認

安全上のご注意	4
サラウンドシステムについて	6
サラウンドシステムを楽しむ前に	7
各機器の接続	8
アンテナの接続	12
スピーカーの接続	14
スピーカーの準備	16
スピーカーの設定	16
スピーカー表示について	17
スピーカーの出力レベル・ディレイタイムを調整する	18

映画や音楽を 楽しむ

DSP モードについて	20
映画や音楽を楽しむ	22
SFC 各モードでの調整	24

ラジオ

ラジオを聞く	26
基本の聞きかた	26
放送局を直接指定する	27
放送局を記憶させて聞く	28

その他の操作

DVD 6CH INPUT	30
その他の機能	31
音質を調整する	31
左右の音量バランスを調整する	31
一時的に消音する (ミュートイング)	31
ヘッドホン (別売り) で聞く	31
サブウーハーを一時的にオフにする	31
録音・録画	32
カセットデッキに録音する	32
ビデオデッキに録画する	32
ヘルプ・リセット機能	33
ヘルプ機能	33
リセット機能	33

リモコン

リモコンでの操作	34
本機を操作する	34
カセットテープを聞く	36
CD を聞く	36
テレビ番組を見る	37
ビデオを見る	38
DVD を見る	39

もし 必要なとき

主な仕様	40
Q & A	41
故障かな!?	42
各部のなまえ	44
保証とアフターサービス	46
お手入れ	裏表紙

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

- 表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は絵表示の一例です。)



この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

電源コードについて

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。



- 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



- 感電の原因になります。

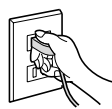
ぬれ手禁止

電源プラグのほこり等は定期的にとる



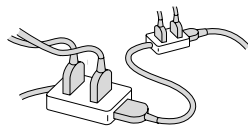
- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



- 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

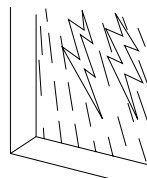
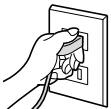
コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V 以外での使用はしない



- たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

雷について

雷が鳴ったら、アンテナ線や機器、電源プラグに触れない



接触禁止

- 感電の恐れがあります。

使用方法

機器内部に金属物を入れたり、水をかけたり濡らしたりしない。



- ショートや発熱により、火災や感電の原因になります。
- 機器の上に液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

分解、改造したりしない



分解禁止

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

もし異常が起きたら

以下のようなときは電源プラグを抜く



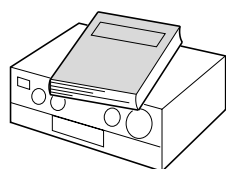
電源プラグを抜く

- 機器内部に金属や水、異物が入ったとき
- 煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

⚠ 注意

設置・接続について

放熱を妨げない



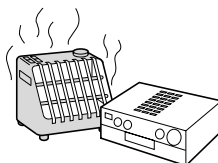
- 内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない



- 電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない



- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

屋外アンテナの設置・工事は自分でしない



- 強風でアンテナが倒れた場合に、感電やけがの原因になることがあります。
- 設置・工事は販売店にご相談ください。

以下のことを守り正しく設置する

- 不安定な場所に置かない
- 上に大きなもの重いものを載せない



- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

電池について

以下のことを守り正しく取り扱う



- +と-は正しく入れる
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使用しない
- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水、火の中へ入れたりしない
- 長期間使用しないときは、取り出しておく
- ネックレスなどの金属物といっしょにしない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない

- 取り扱いを誤ると、電池の液もれにより、火災や周囲汚損の原因になります。
- 万一液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
- 液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

使用方法

コードを接続した状態で移動しない



- 接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。
- また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない



- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

サラウンドシステムについて

サラウンドシステム

特徴

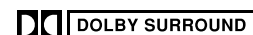
供給ソフト

Dolby Pro Logic

映画館のDolby Stereoを家庭で楽しむために開発されたのがDolby Surroundです。アナログマトリックス方式を用いてオリジナルに迫る映画サウンドを再現します。Dolby Pro Logicは、Dolby Surroundのソースでよりリアルな音場を形成するために開発されたデコードシステムです。センタースピーカーチャンネルを独立させることで、特に定位感を向上させています。

- ビデオテープ
- レーザーディスク
- DVD
- CD など

Dolby Surroundのソフトには以下のマークがあります。



Dolby Digital

ディスクリット 6 (5.1) チャンネル方式を用いた映画館用デジタルサラウンドシステムの1つです。すべてのDolby Digitalソースが6チャンネルを使っているわけではありません。Dolby Surround (2チャンネル) のソースを記録したものなどもあります。

- DVD など
- Dolby Digitalのソフトには以下のマークがあります。



DTS

ディスクリット 6 (5.1) チャンネル方式を用いた映画館用デジタルサラウンドシステムの1つです。DTSソースは、全チャンネル使用を前提に作成されています。

- DVD
 - レーザーディスク
 - CD など
- DTSのソフトには以下のマークがあります。



SFC

上記以外のフォーマットのソースに対し、アンプ側のみでサラウンド効果を造り出す機能です。再生音に広がりや残響を与えることで、色々な音場感（コンサートホール、ジャズクラブなど）を楽しむことができます。

音楽CD、ビデオテープなどの、あらゆるソースで楽しむことができます。

ドルビープロロジック、ドルビーデジタル 6 (5.1) ch、DTS 6 (5.1) ch を比較すると

方式	ドルビープロロジック	ドルビーデジタル 6 (5.1) ch	DTS 6 (5.1) ch
音声	アナログ	デジタル	デジタル
記録チャンネル数	2 CH	5.1 CH	5.1 CH
再生チャンネル数	4 CH	5.1 CH	5.1 CH
サラウンド音声	モノラル	ステレオ	ステレオ
サラウンド音声帯域	100 Hz～7 kHz	20 Hz～20 kHz	20 Hz～20 kHz
サブウーハーの独立	なし	あり	あり
サブウーハー用信号帯域	—	5 Hz～120 Hz	20 Hz～80 Hz
信号圧縮率	—	約 12 分の 1	約 4 分の 1
ダイナミックレンジ	60 dB	120 dB	145 dB

サラウンドシステムを楽しむ前に

ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS のソフトを迫力ある立体サウンドでお楽しみいただくために、下記の順序で各種設定や調整を行なってください。

各機器 (DVD プレーヤーやテレビなど) を接続する。
(⇒ 8～11 ページ)



スピーカーシステムを設置し、接続する。
(⇒ 14～15 ページ)



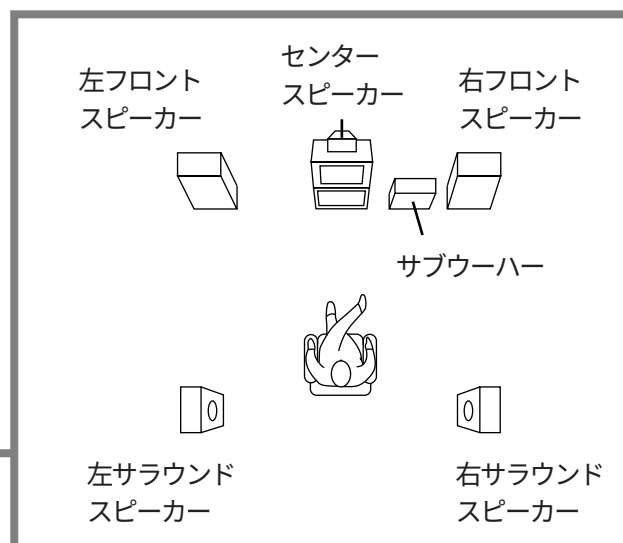
スピーカーの接続の有無、タイプについての設定をする
(⇒ 16～17 ページ)



各スピーカーの出力レベルおよびディレイタイムを調整する。
(⇒ 18～19 ページ)



映画や音楽を楽しむ。
(⇒ 22～23 ページ)



- **フロント/センター/サラウンドスピーカーの設定**
LARGE: 100 Hz 以下が再生できるとき。
SMALL: 100 Hz 以下が再生できないとき。
NONE: (センター/サラウンドのみ) スピーカーを接続していないとき。
- **サブウーハーの設定**
ON: 使用するとき。 **OFF:** 使用しないとき。

- **出力レベルの調整**
 フロント/センター/サラウンドおよびサブウーハーからの出力レベルが全て同じレベルになるように調整します。
- **ディレイタイムの調整**
 センター/サラウンドスピーカーの設置位置に応じて調整します。
- **SFC での調整**
 各ソースの再生中に好みに応じて調整します。
 (⇒ 24 ページ)

再生する映画や音楽に応じて、本機の DSP (再生モード選択) つまみを設定してください。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
 「Dolby」、「Pro Logic」及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
 非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

この製品は米国 DTS 社からの実施権に基づき製造されています。
 「DTS」および「DTS デジタルサラウンド」は DTS 社の商標です。
 著作権1996年 DTS 社。不許複製。

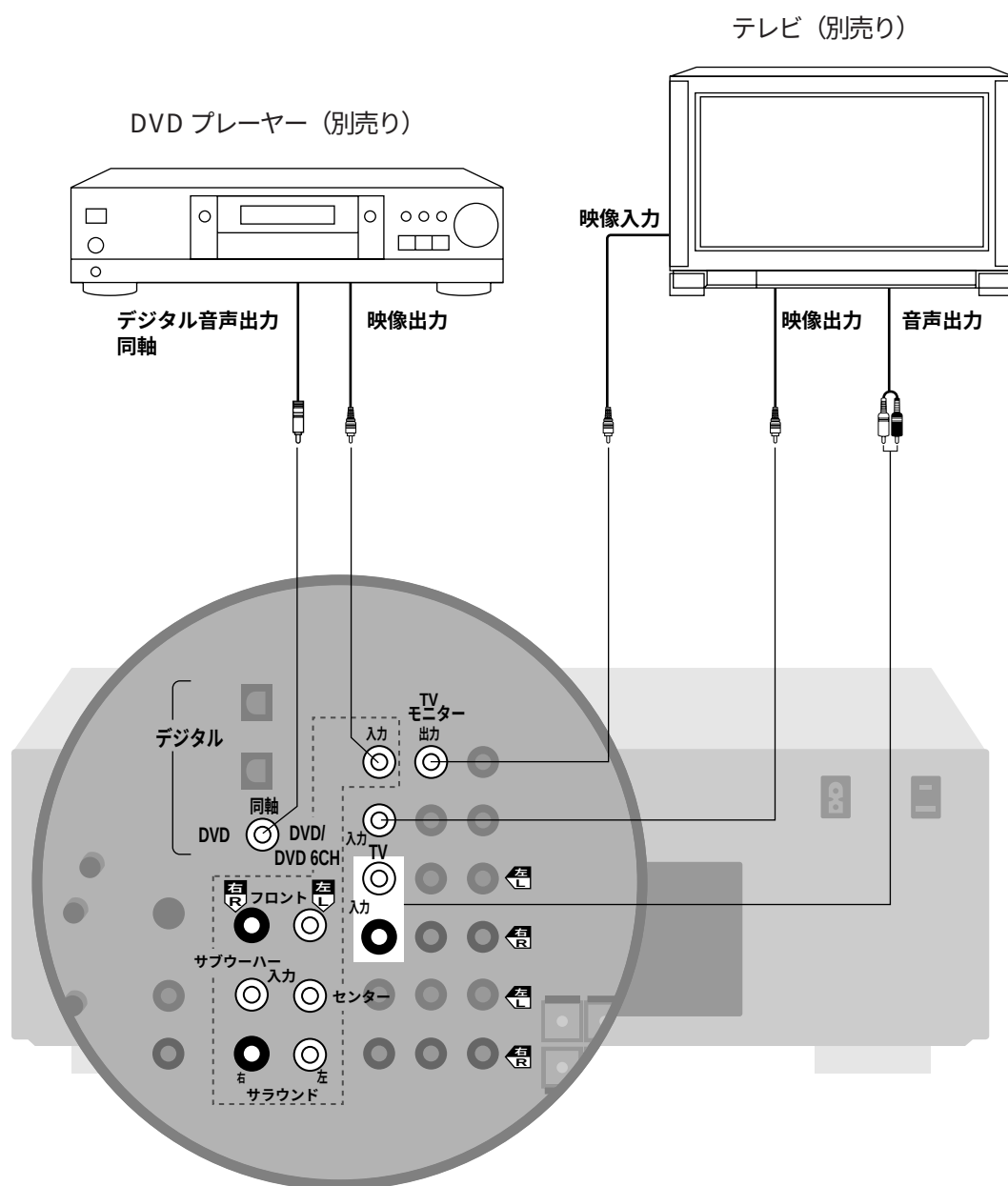
各機器の接続

- 接続時には各機器の電源を切ってください。
- 本機の電源コードは最後に接続してください。
- 各機器の説明書もご参照ください。
- デジタル端子のみで接続している機器からの録音はできません。アナログ接続もして、アナログ入力を選んでください。

お願い

本機の上には物を載せないでください。

DVD プレーヤーとテレビを接続する



ステレオピンコード（別売り）

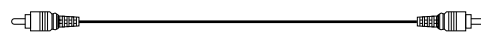
[品番: RP-CAP3G10 (1 m) など]

(L/左) 白  (R/右) 赤 **同軸ケーブル（別売り）**

[品番: RP-CV710 (1 m) など]

**ビデオコード（別売り）**

[品番: RP-CVP0G10 (1 m) など]

**オプティカルデジタルケーブル（別売り）**

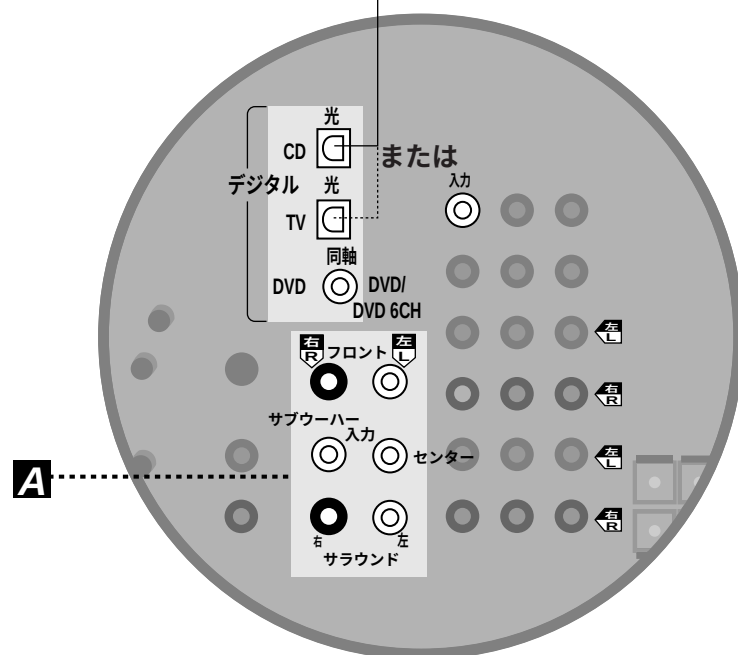
[品番: RP-CA2010A (1 m) など]

角型  角型 **同軸出力端子のない DVD プレーヤーでもデジタル接続できます**DVD プレーヤー
(別売り)デジタル音声出力
光

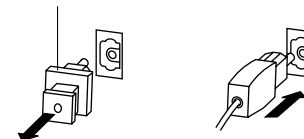
映像出力

テレビの
映像入力へ**お知らせ**

光デジタル端子に DVD プレーヤーを接続した場合は、11ページ記載のように CD プレーヤーや BS/CS チューナーを同時に使用することはできません。

**オプティカルデジタルケーブルのつなぎかた**

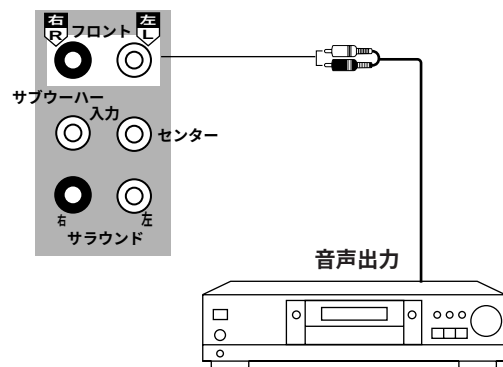
防塵キャップ

**お願い**

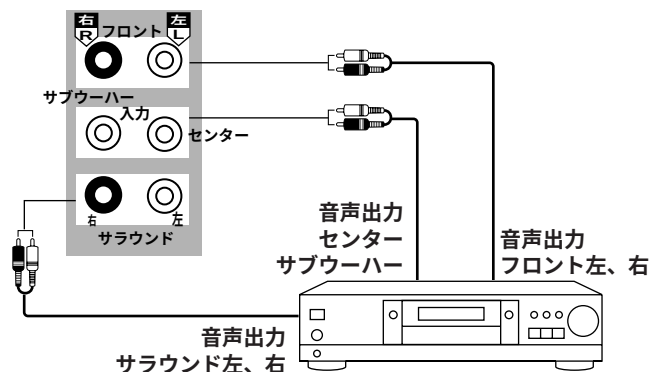
- ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。
- 光デジタル端子を使用しないときは防塵キャップをつけておいてください。

DVD プレーヤーのアナログ音声出力と接続する A

録音やカラオケ、本機でデコードできないソースを楽しむときなどに使用します。



2CH 出力のみの DVD プレーヤー（別売り）



6CH 出力を持った DVD プレーヤー（別売り）

各機器の接続

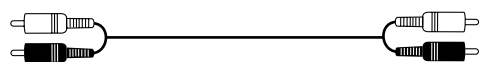
アナログ機器を接続する

ステレオピンコード（別売り）

[品番: RP-CAP3G10 (1 m) など]

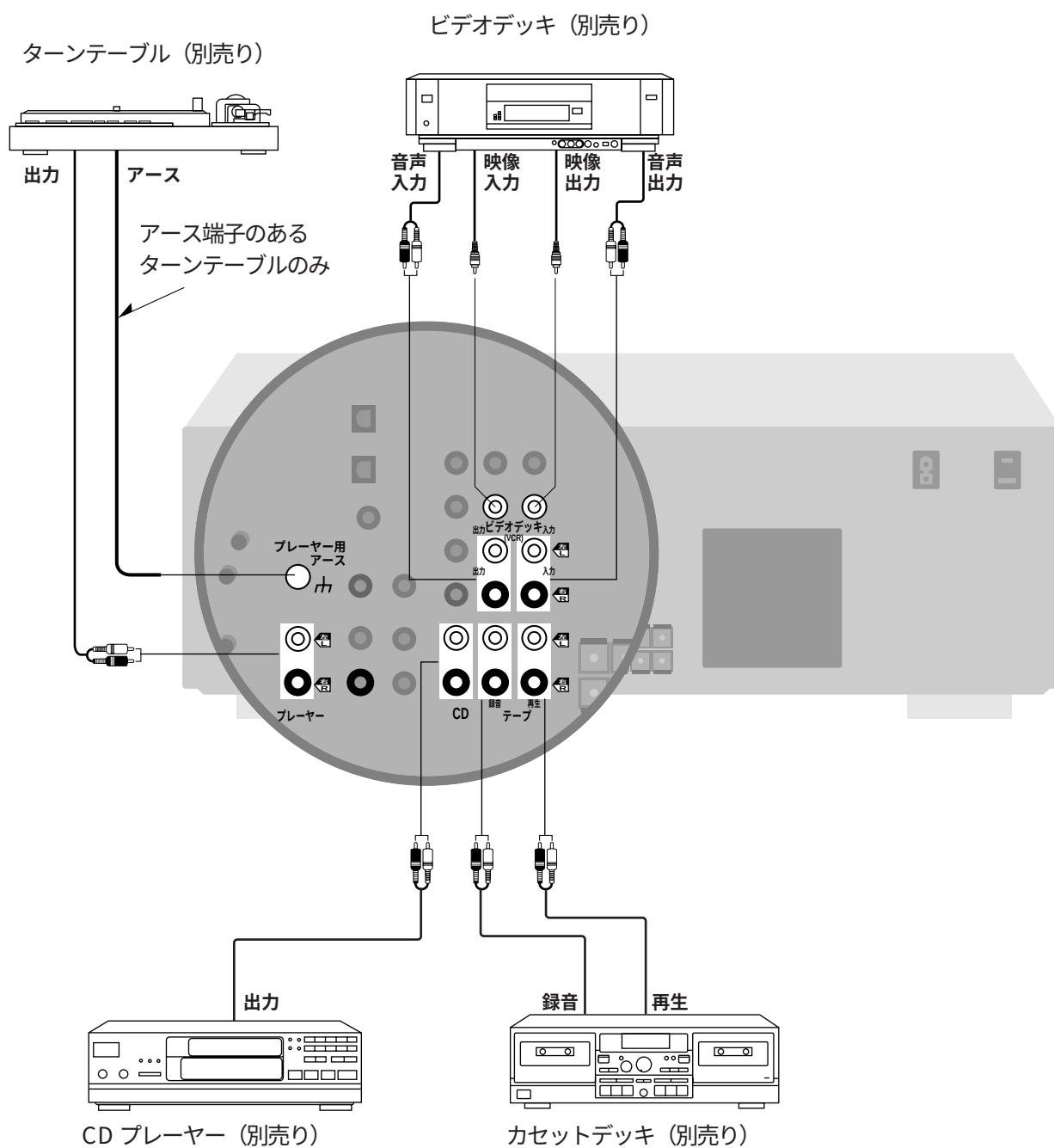
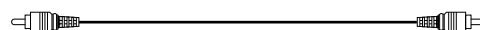
(L/左) 白

(R/右) 赤



ビデオコード（別売り）

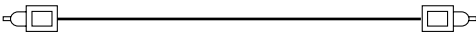
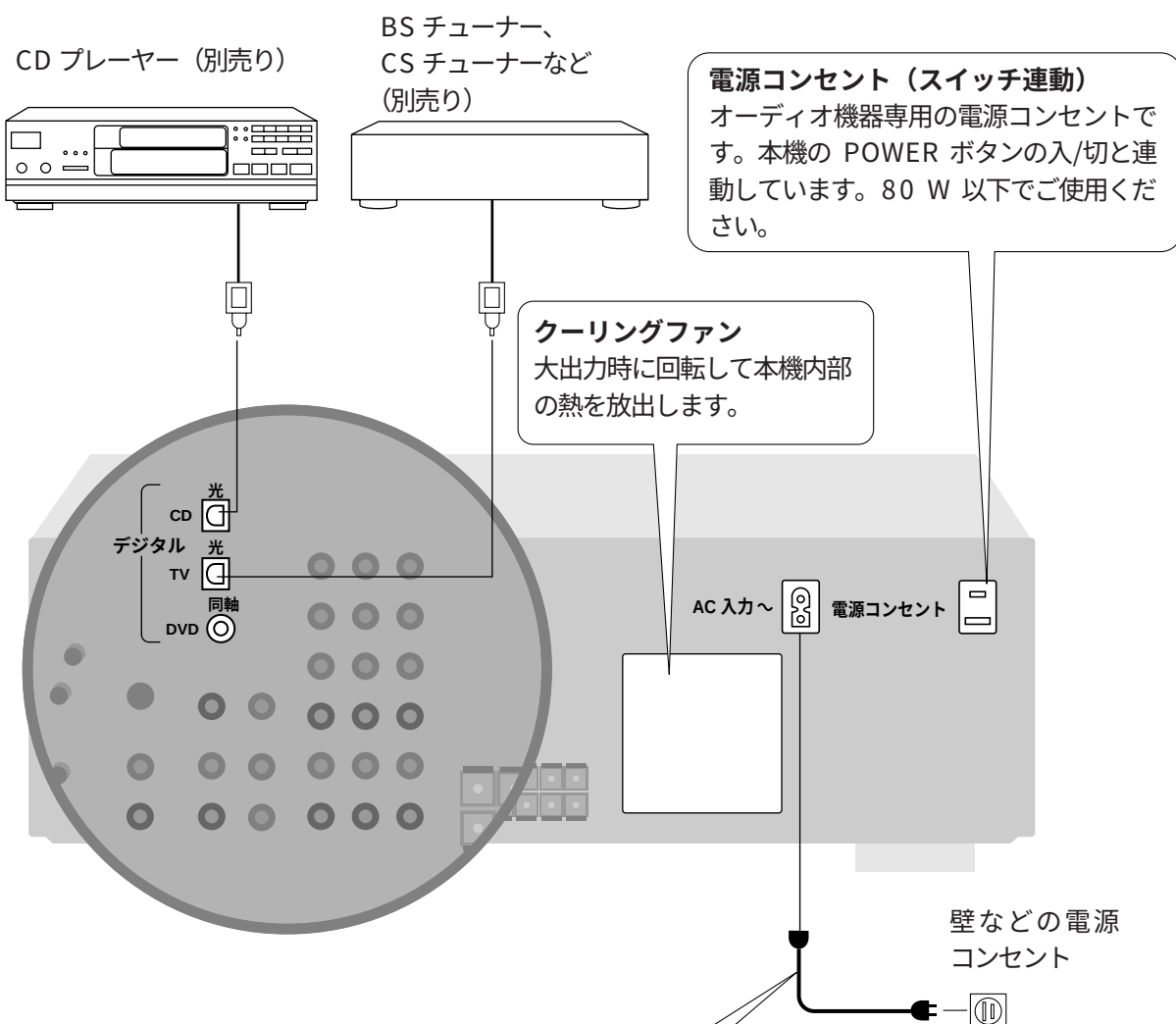
[品番: RP-CVP0G10 (1 m) など]



CD, TV のデジタル端子への接続と電源コード

オプティカルデジタルケーブル（別売り）

[品番: RP-CA2010A (1 m) など]

角型  角型

電源コード

他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。

お願い

付属の電源コードは、本機専用です。

他の機器に使用しないでください。

長期間使用しないときは

節電のため電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いておくことを
おすすめします。ただし、数週間から1 ヶ月ほどそのままにしておくと、
本機の各種設定が工場出荷時の状態に戻ります。そのときは再度設定を
行ってください。

[POWER] で電源を切った状態でも、約 0.9 W の電力を消費しています。

アンテナの接続

FM 簡易型アンテナ（付属）を接続するには A

通常、FM 放送の受信はこのアンテナを使います。

壁や柱などの受信状態の良い位置に、セロハンテープなどで止めてください。

さらに受信状態を良くしたい場合は、FM 屋外アンテナを使用する方法があります。(➡ 13 ページ)

AM ループアンテナ（付属）を接続するには B

通常、AM 放送の受信はこのアンテナを使います。

AM アンテナを接続しないと AM は受信できません。

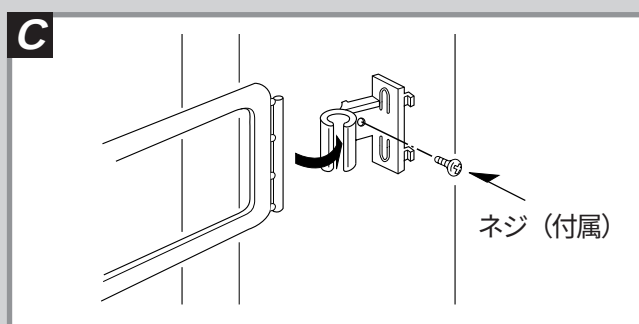
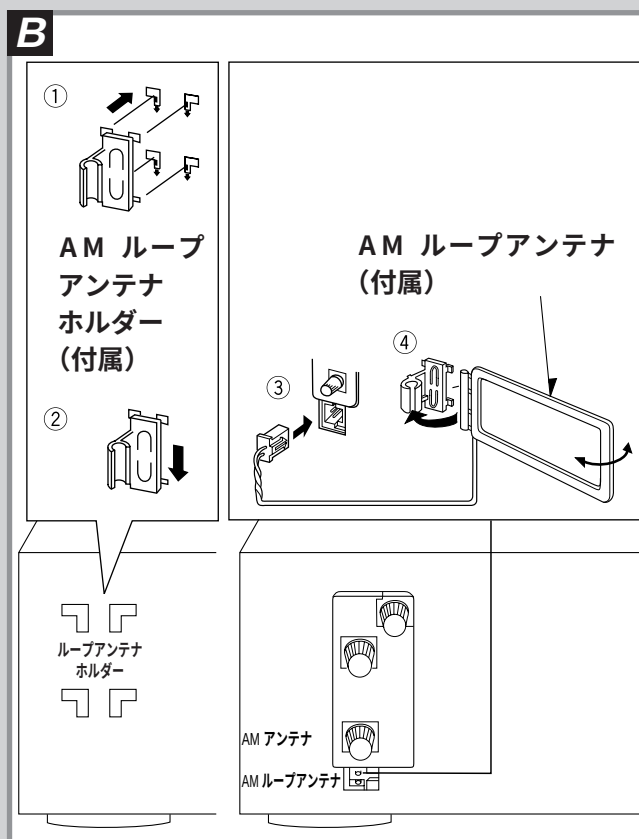
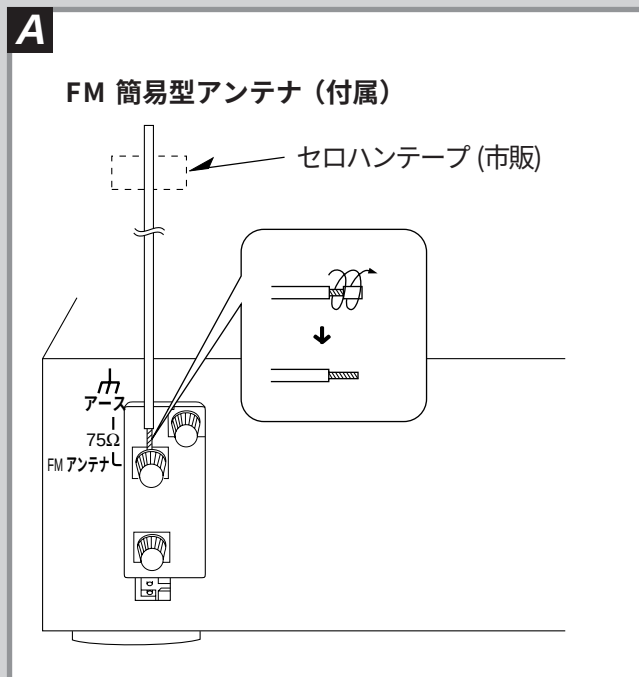
まず専用のホルダー(付属)を本機の後面に取り付けた後、AM ループアンテナを差し込んで受信状態の良い角度に調節してください。

柱や壁、ラックなどに取り付ける場合は

図のようにネジ（付属）でホルダーを固定してください。

お願い

- アンテナを水平には取り付けないでください。受信状態が悪くなります。
- 電源コード、スピーカーコードの側や金属表面などには設置しないでください。雑音の原因になります。
- テープデッキには近づけないでください。デッキの使用中に不快な雑音が発生することがあります。



アンテナの接続

FM 屋外アンテナ（市販）を接続するには A

山間部や鉄筋コンクリートに囲まれた場所などでは電波が弱く、FM 簡易型アンテナでは十分に受信できないことがあります。その場合は FM 屋外アンテナの使用をお勧めします。

FM 簡易型アンテナは取り外してください。

お願い

FM 屋外アンテナの設置は、必ず専門の技術者に依頼してください。

AM 屋外アンテナ（市販のビニール被覆線）を接続するには B

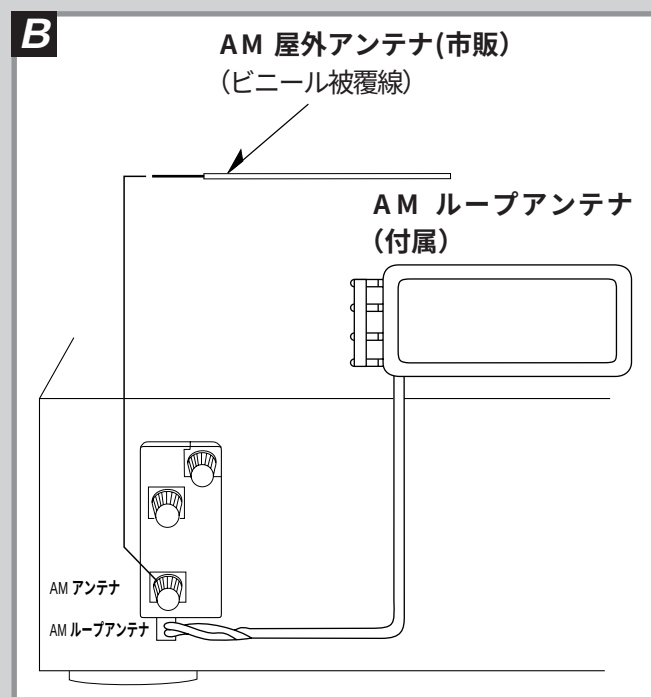
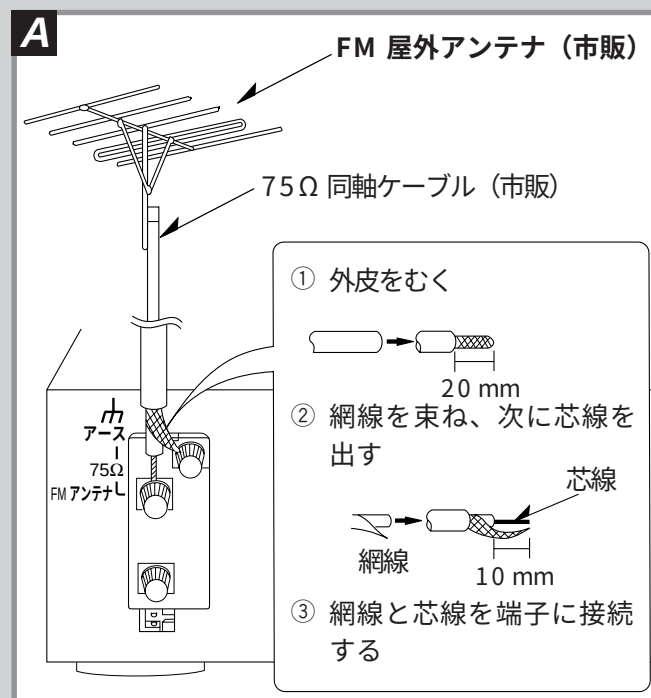
山間部や鉄筋コンクリートに囲まれた場所などでは電波が弱く、AM ループアンテナだけでは十分に受信できないことがあります。その場合は AM 屋外アンテナの使用をお勧めします。

市販のビニール被覆線（5～12 m）を窓際などに水平に、またできるだけ高い位置に取り付けてください。

AM ループアンテナは接続したままにしておいてください。

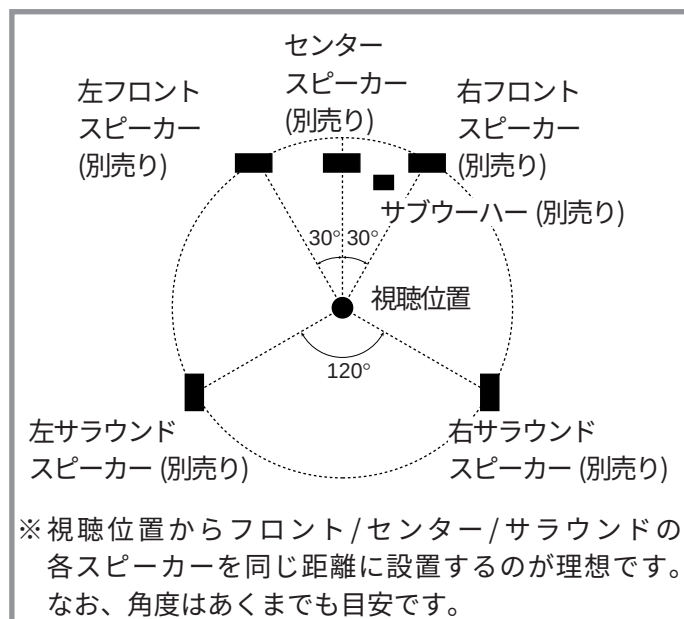
お願い

落雷による危険を防ぐために、天候の悪いときや本機を使用しないときは AM 屋外アンテナを本機から取り外してください。



スピーカーの接続

スピーカーの配置



フロントスピーカー (左右)

テレビの左右に置き、視聴位置で（実際に椅子に座るなどして）映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調節してください。

センタースピーカー

テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。

サラウンドスピーカー(左右)

視聴位置の左右（横またはやや後ろ）に、耳の位置より1 m ほど高く設置してください。

サブウーハー

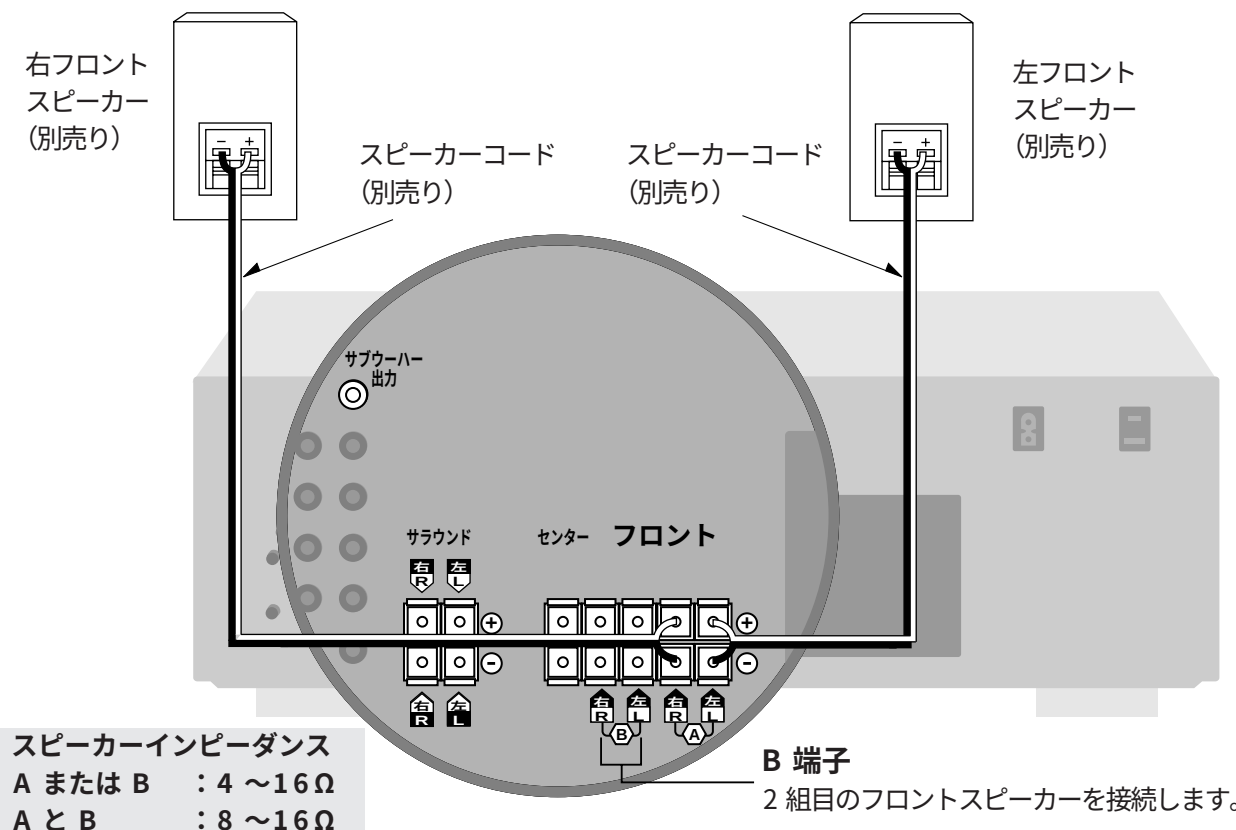
テレビから大きく離れない程度の適当な位置に置いてください。

置く場所によって低域の周波数特性が変化しますので色々試してみてください。例えば、部屋の隅に置くと音量が増加します。(ただし少し不自然な感じにはなります。)

スピーカーの接続

ここでは基本的な接続方法を説明しています。スピーカーシステムにより接続方法が異なる場合がありますので、スピーカーの説明書も合わせてお読みください。

フロントスピーカーの接続



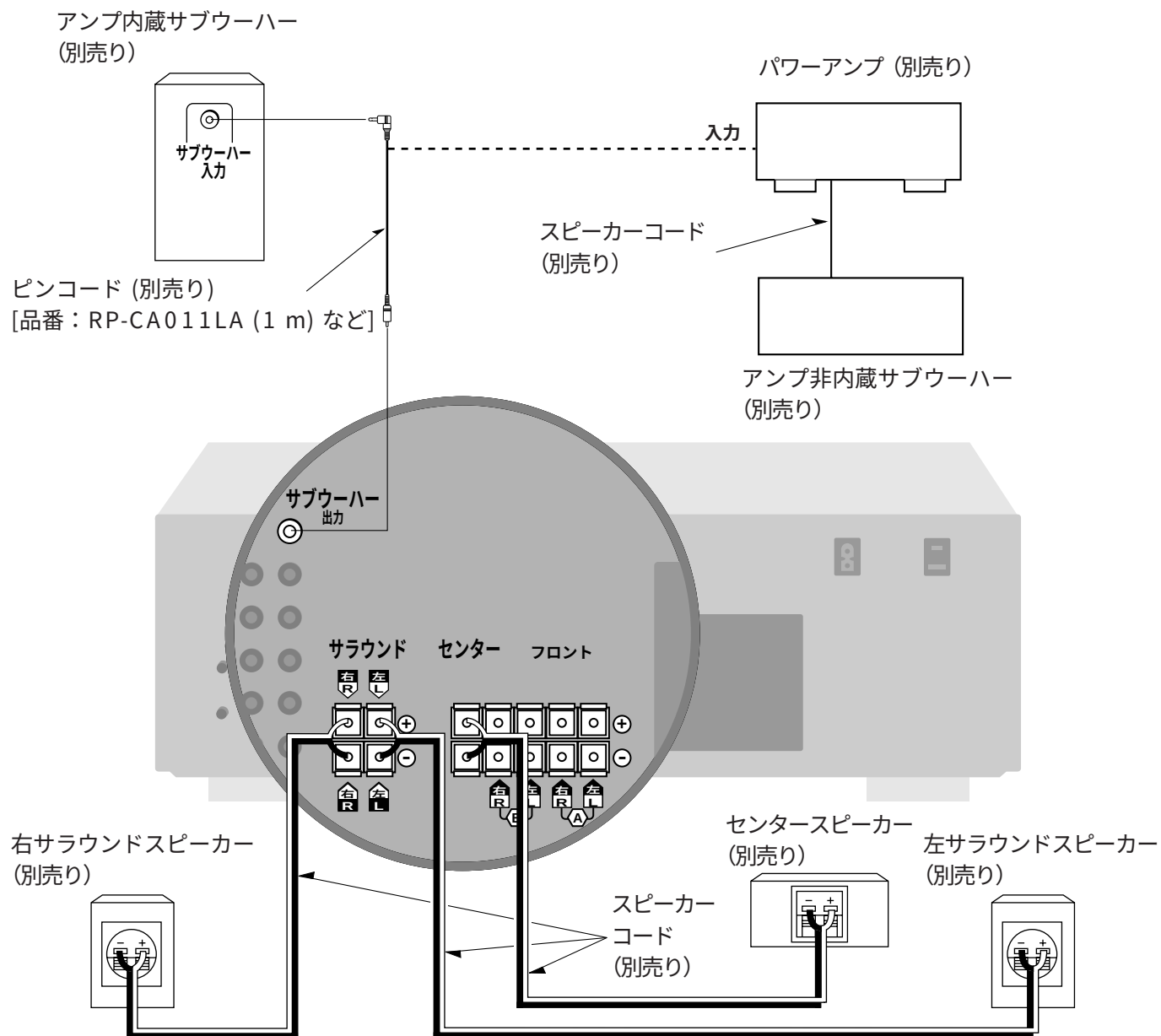
お願い

6 Ω 未満のインピーダンスのスピーカーを使用する場合は、LOW IMP 設定にしてください。(⇒ 25 ページ)

お願い

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS、SFC を楽しむ場合はA 端子に接続してください。

その他のスピーカーの接続

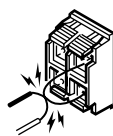
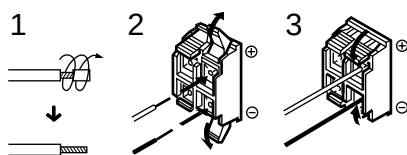


スピーカーインピーダンス

センタースピーカー : 6 ~ 16 Ω

サラウンドスピーカー : 6 ~ 16 Ω

スピーカーコードの接続方法



お願い

スピーカーコードの⊕ と ⊖ をショート
させないでください。回路が破損する
恐れがあります。

スピーカーの準備

スピーカーの設定

フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定

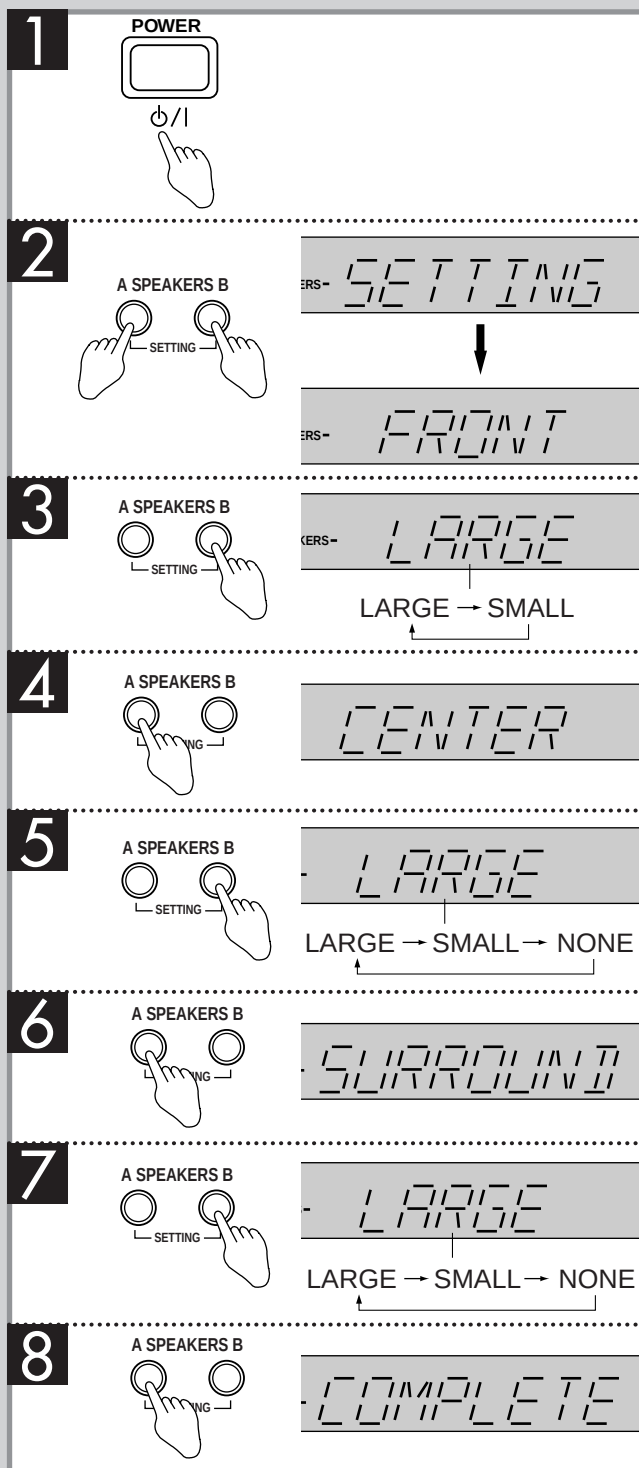
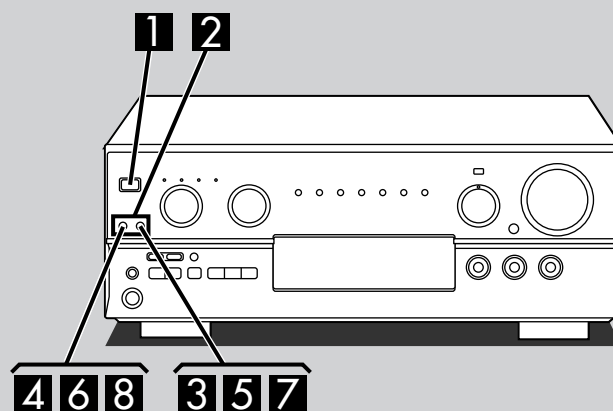
お手持ちのスピーカーのタイプ (LARGE または SMALL) を設定します。

100 Hz 以下の再生ができるかどうかを目安として、できる場合を LARGE、できない場合を SMALL とします。センターやサラウンドスピーカーを使用していない場合は NONE を選んでください。そのとき、その音はフロントスピーカーに振り分けられて再生されます。

初期設定はすべて LARGE になっています。

- 1** [POWER] を押して、電源を入れる。
- 2** [A]と[B]を同時に押す。
まず、“SETTING”が表示され、次に“FRONT”が表示されます。
- 3** [B] を押して、フロントスピーカーの種類 (LARGE または SMALL) を設定する。
- 4** [A] を押して、“CENTER”を選ぶ。
- 5** [B] を押して、センタースピーカーの種類 (LARGE または SMALL) を設定する。
センタースピーカーを接続していない場合は“NONE”を選んでください。
- 6** [A] を押して、“SURROUND”を選ぶ。
- 7** [B] を押して、サラウンドスピーカーの種類 (LARGE または SMALL) を設定する。
サラウンドスピーカーを接続していない場合は“NONE”を選んでください。
- 8** [A] を押して、設定を完了させる。
設定内容が本機に記憶されます。3 秒後に現在表示に戻ります。
もし、設定を間違えた場合は手順 2 からやり直してください。

設定の途中で、約 10 秒そのままにしておくと、設定は取り消され、もとの表示にもどります。そのときは、最初からやり直してください。



スピーカーの準備

サブウーハーの設定 **A**

[SUBWOOFER] を押して、“ON” または “OFF” を選ぶ。

表示パネルに “SUB-WFR” 続いて現在の設定内容 “ON” または “OFF” が表示されます。

もう一度押すと、“ON” と “OFF” が切り換わります。

ON: サブウーハーを使用するときに選びます。

OFF: サブウーハーを使用しないときに選びます。

5 秒後にもとの表示に戻り、設定が確定します。

STEREO モードで楽しんでいるときに一時的にサブウーハーから音を出さなくすることもできます。

ご参考：

これらの設定は電源を切っても記憶されています。

スピーカー表示について **B**

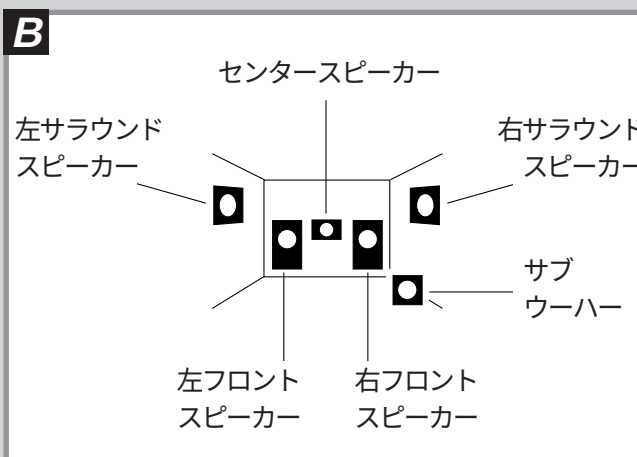
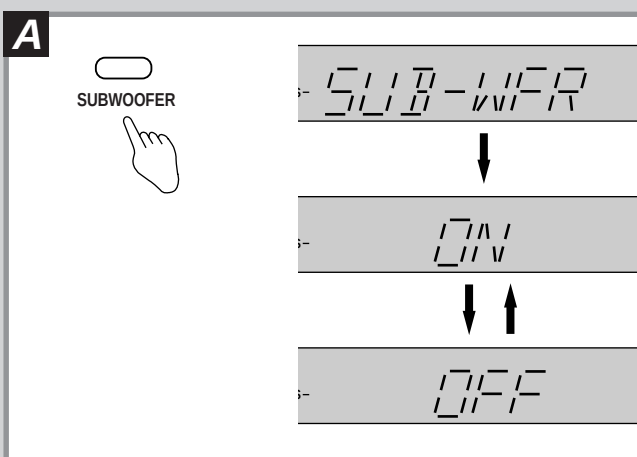
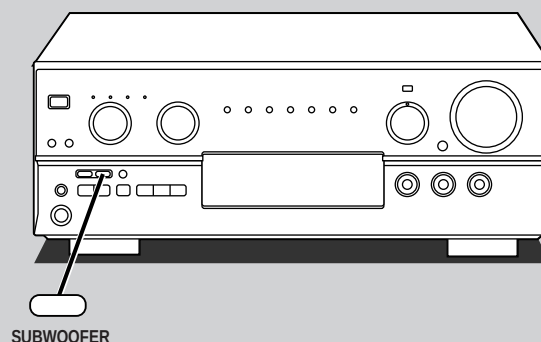
スピーカー表示は現在どのスピーカーが使用可能であることを示しています。

スピーカー設定で “NONE” や “OFF” の設定をしたものは、表示されません。

STEREO モードを選んでいるときは、センターやサラウンドスピーカーの表示は消えます。

お知らせ

スピーカーの設定は必ず行なってください。たとえば、センタースピーカーを接続していないのに、初期設定のまま (LARGE) にしておくと、映画を見ていて、セリフが聞こえなかったり、DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しんでいるときにマイクの音が出力されなかったりすることがあります。



スピーカーの準備

スピーカーの出力レベル・ディレイタイムを調整する

実際に視聴する位置において、全てのスピーカーからの出力が同じ音量になるように出力レベルを調整します。また、スピーカーを置く位置によって、各スピーカーから音が届くタイミングが異なります。この差を補正するために、センターとサラウンドスピーカーから音が届くまでの時間 (ディレイタイム) を調整します。

お知らせ

16～17 ページの「スピーカー設定」で“NONE”や“OFF”に設定しているスピーカーからは TEST 信号は出力されません。また、[LEVEL] や [DELAY] を押して、それらのスピーカーを選ぶこともできません。

ディレイタイムを算出する A

センターチャンネルの調整

$D_1 \leq D_3$	0 ms に設定
$D_1 > D_3$	D_1 と D_3 の差 30 cm ごとに 1 ms ずつ増やす。

サラウンドチャンネルの調整

$D_1 \leq D_2$	0 ms に設定
$D_1 > D_2$	D_1 と D_2 の差 1.5 m ごとに 5 ms ずつ増やす。

まず本体の準備をする B

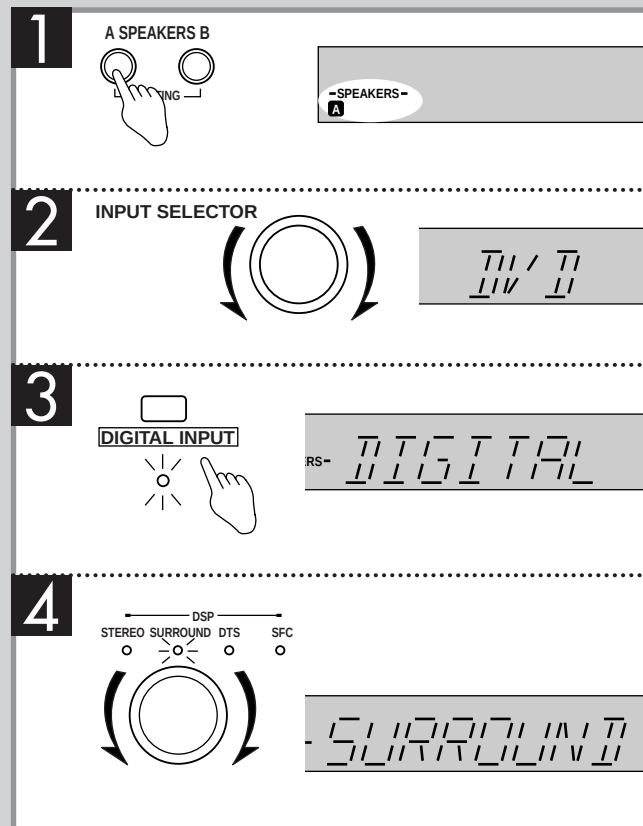
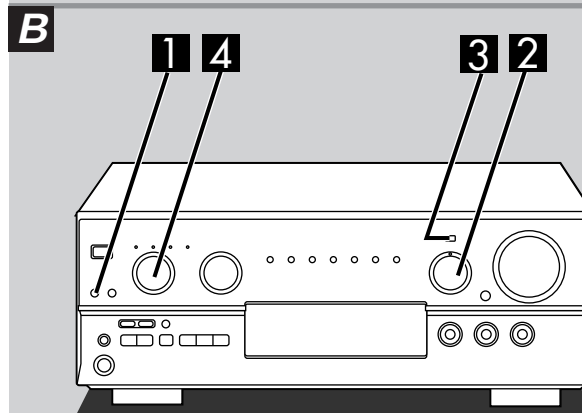
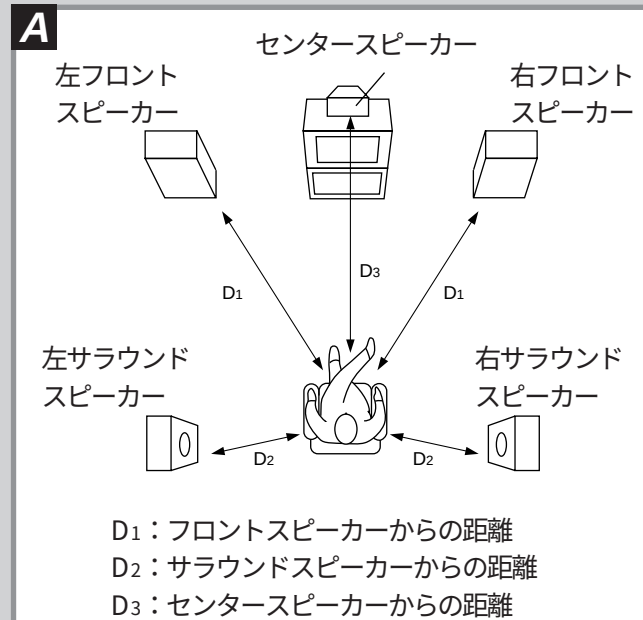
- 1** [A] を押して、スピーカー A をオンにする。
スピーカー B では、調整できません。
- 2** [INPUT SELECTOR] を回して、“DVD”を選ぶ。
ソースの再生はしないでください。
- 3** [DIGITAL INPUT] を押して、“DIGITAL”を選ぶ。
- 4** [DSP] を回して、“SURROUND”を選ぶ。

お知らせ

デジタル接続した機器を使用しない場合でも、この設定で行なってください。

TEST 信号は SURROUND モードでのみ出力されます。ディレイタイム調整の際、ソースを再生していたり、アナログ入力を選んでいると、次のことが起こりますので、ご注意ください。

- DTS フォーマットのソースの場合は調整できません。
-  PRO LOGIC 表示中はサラウンドチャンネルしか調整できません。(そのとき切り換わる数字は、15, 20, 25, 30 ms となります。)



スピーカーの準備

出力レベル・ディレイタイムを調整する

リモコンで

1 [TEST] を押す。

テスト信号が各スピーカーから下記の順に出ます。また、出力中のチャンネルが表示パネルに表示されます。

L: 左フロントスピーカー

C: センタースピーカー

R: 右フロントスピーカー

RS: 右サラウンドスピーカー

LS: 左サラウンドスピーカー

SW: サブウーハー

左右フロントスピーカーの音量バランスがずれている場合は本体の [BALANCE] つまみで調整してください。

2 [-VOL +] を押して、通常聞く音量にする。

3 [LEVEL] を押して、調整するスピーカーを選ぶ。

4 [-] または [+] を押して、フロントスピーカーと同じレベルに設定する

5 手順 3 と 4 を繰り返し各スピーカーが同じ音量になるように設定する。

お知らせ

スピーカー調整中は、テスト信号はそのスピーカーからのみ出力されます。調整操作が終了と、再び各スピーカーから順に出力されます。

6 [TEST] を押して、テスト信号を止める。

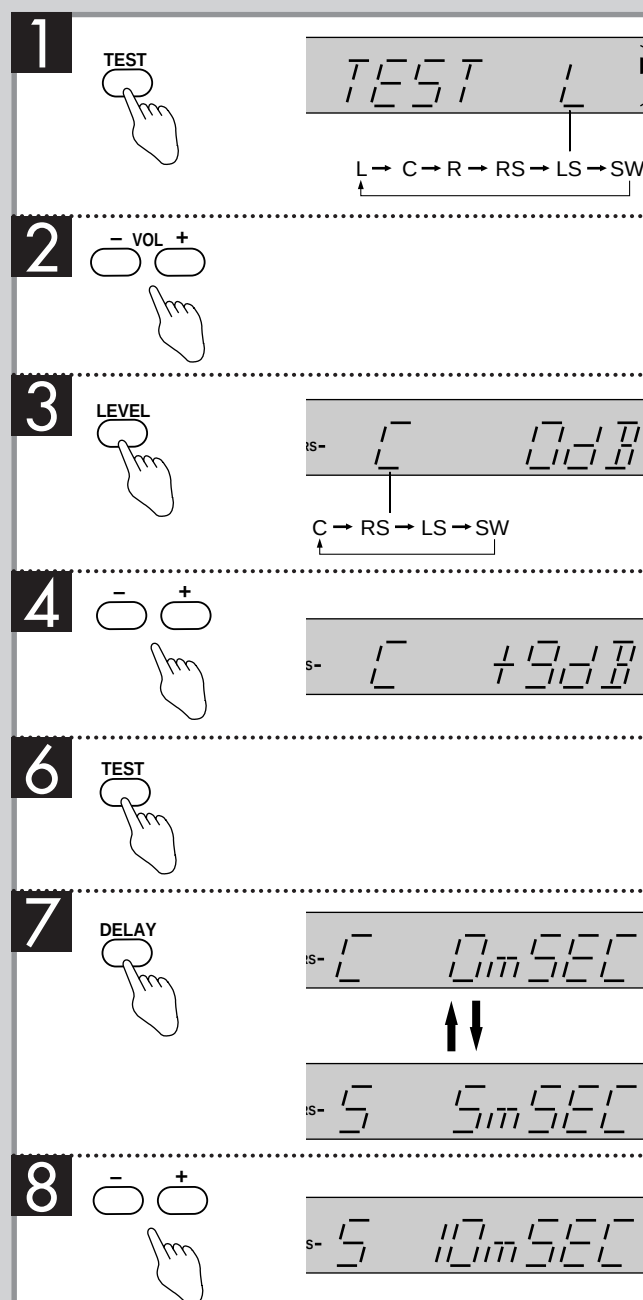
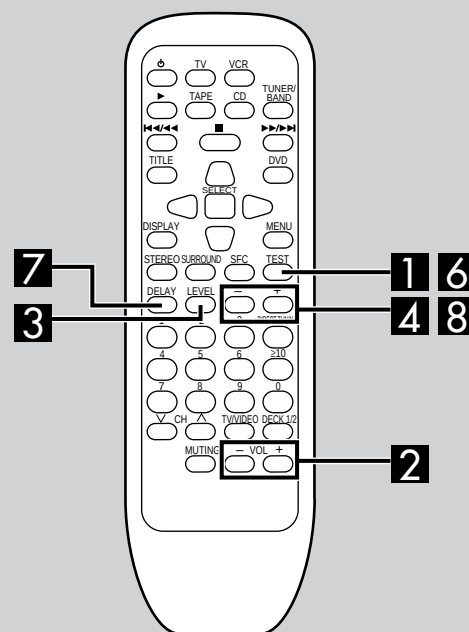
7 [DELAY] を押して、C (センター) あるいは S (サラウンド) を選ぶ。

8 [-] または [+] を押して、ディレイタイムを調整する。

「ディレイタイムを算出する」(➡ 18 ページ) で算出した値を選んでください。

初期設定値は、C が 0 ms、S が 5 ms です。

スピーカー	設定できるディレイタイム
C (センター)	0, 1, 2, 3, 4, 5 (ms)
S (サラウンド)	0, 5, 10, 15 (ms)



DSP モードについて

デジタル シグナル プロセッサ
本機の DSP (Digital Signal Processor) には次のようなモードがあります。

ステレオ モード A

デジタル、アナログにかかわらず、ステレオソースを楽しみたいときに使用します。

また、ドルビーデジタルや DTS のソースを2チャンネルで楽しみたいときもこのモードにします。

本機のダウンミックス機能により、各スピーカーに分割された信号を左右フロントチャンネルに集約して出力します。

サラウンドソースをダウンミックスすると、全体の音量が多少かわります。

サラウンド モード B

デジタル入力を使用中にこのモードを選ぶと、デジタルソースのフォーマット（ドルビーデジタル、DTS）を本機が自動的に判別し、適切な信号処理を行ないます。また、ドルビーサラウンド録音されたアナログソース（ビデオテープなど）をドルビープロロジックで再生するときにもこのモードを使用します。

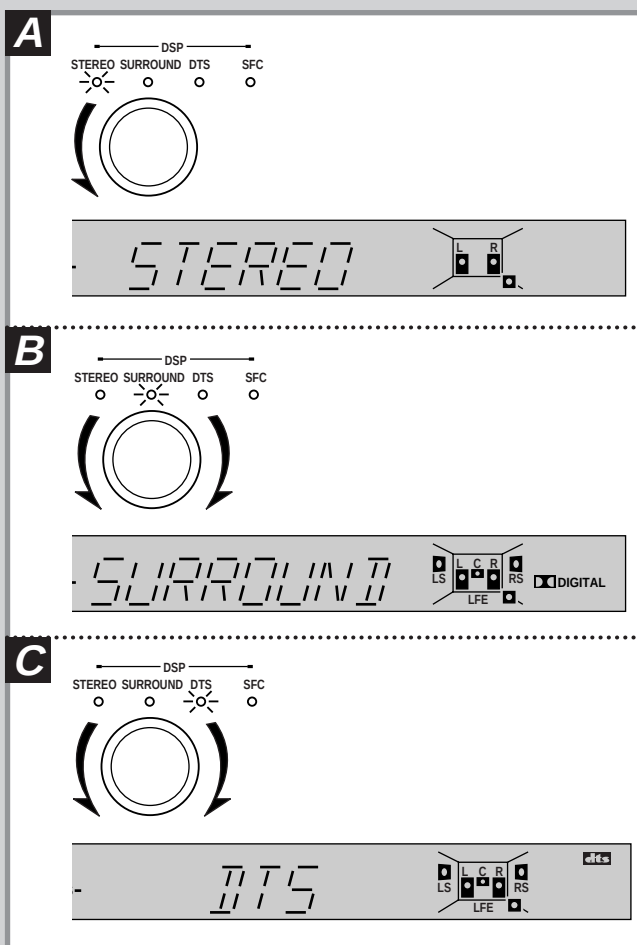
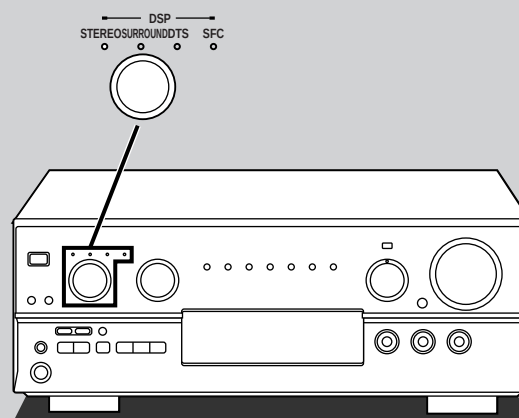
このモードで再生できるのは、下記のロゴマークが入ったソースです。



DTS モード C

上記 SURROUND モードで DTS ソースを再生しているにもかかわらず、自動判定されない場合にのみ、このモードを選んでください。

このモードで再生できるのは、下記のロゴマークが入ったソースです。



DSP モードについて

SFC モード

サウンドフィールドコントロール
SFC とは Sound Field Control（音場コントロール）の略で、好みの臨場感や広がり感を得ることができます。

お知らせ

SFC はステレオソースに音場効果を与えるために設計されています。

ドルビーデジタル、DTS、ドルビーサラウンドのソースを再生するときは、SURROUND モードで再生してください。

HALL

大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がりがあります。

CLUB

ジャズクラブにいるようなリアルで真近な雰囲気を与えます。このモードは、天井が低く、音が反射しやすい硬い面で囲まれた狭い部屋をイメージしています。そのため演奏者がすぐ近くにいるような、臨場感のあるサウンドが得られます。

LIVE

ボーカルの声を際立たせることにより、ライブステージを聞いているような効果を出します。

THEATER

映画の中の音源とその距離感がはっきりとし、また音の広がりがごく自然に再現されます。ステレオソースを再生するとき、このモードを使用できます。

SIM SURR (シミュレーティッドサラウンド)

サラウンドスピーカーから音が出ていないとき、またその音が小さい場合にこのモードをお試しください。広い空間で響いているような広がり感があります。またモノラルソースの場合でも、サラウンドスピーカーから音を出すことで同様の効果を得られます。

ラジオの受信状態が悪かったり、“TUNED”表示が点滅していたら

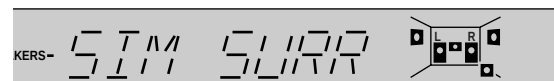
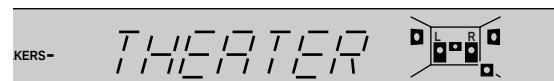
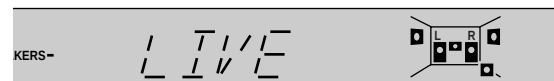
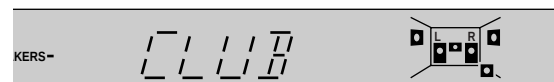
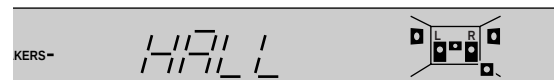
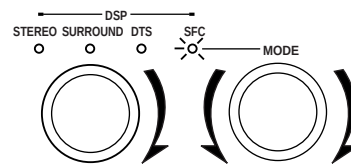
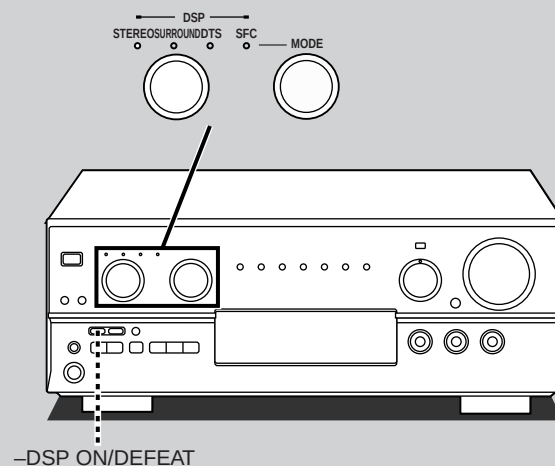
[—DSP ON/DEFEAT] を “DEFEAT” が表示されるまで（約 2 秒）押す。

DSP の動作を停止させると、改善される場合があります。もう一度、押し続けると、DSP はオンになり、STEREO モードになります。

“DEFEAT” の状態では本機のデジタルシグナルプロセッサ（DSP）は使用できません。このとき、フロントスピーカーからのみ音がでます。

お知らせ

“DEFEAT” 選択中は DSP の各モードは選べません。

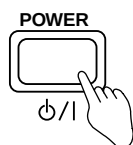


映画や音楽を楽しむ DSP モードについて

映画や音楽を楽しむ

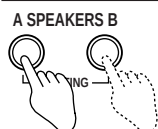
下記の操作を行う前に、[VOLUME] を “ MIN ” (最小) の位置にしてください。

1



[POWER] を押して、電源を入れる。

2



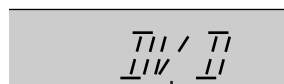
[A] または [B] を押して、スピーカーをオンにする。
A と B 両方ともオンにすることもできます。

お知らせ

[B] は STEREO モードでのみ使用できます。
手順 5 で SURROUND, DTS, SFC の各モードを選ぶときは、必ず、[A] を選んでください。

3

INPUT SELECTOR

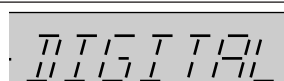
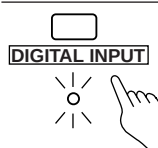


TAPE ⇄ VCR ⇄ TV ⇄ DVD ⇄ CD ⇄ TUNER ⇄ PHONO

[INPUT SELECTOR] を回して、入力ソースを選ぶ。

選んだ入力ソースに応じて、入力表示ランプが点灯します。

4

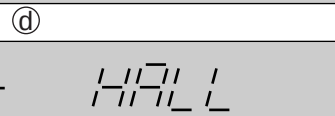
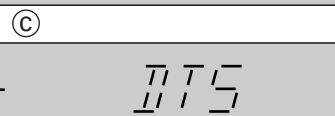
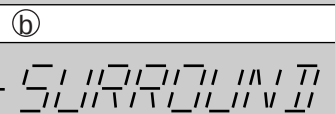
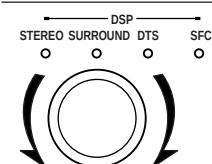


DIGITAL ⇄ ANALOG

(手順 3 で TV, DVD, CD を選んだときのみ)

[DIGITAL INPUT] を押して、“ DIGITAL ” または “ ANALOG ” を選ぶ。

5



[DSP] を回して、再生モードを選ぶ。

選んだモードに応じて、DSP ランプが点灯し、表示パネルにはそのモードの表示がでます。

① **STEREO:** STEREO

② **SURROUND:** SURROUND

③ **DTS:** DTS

④ **SFC:** HALL, CLUB, LIVE, THEATER, SIM SURR

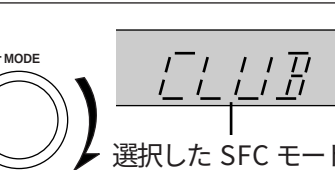
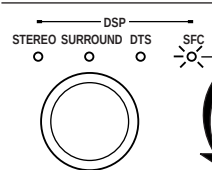
お願い

ソースに合ったモードを選んでください。

(➡ 20～21ページ)

Dolby Digital や DTS のソースは SFC モードでは再生できません。

6



選択した SFC モード

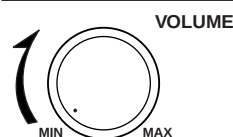
(手順5で SFC を選んだ場合のみ)

[MODE] を回して、SFC のモードを選ぶ。

7

ソースを再生する。

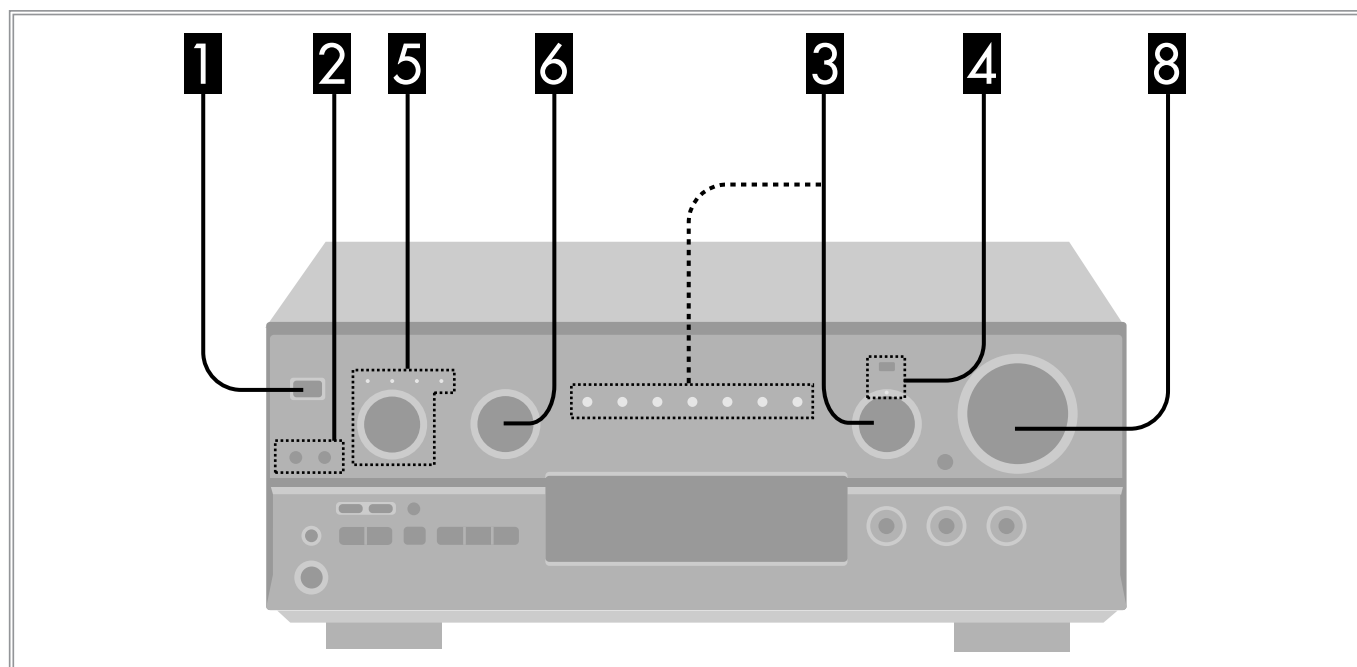
8



[VOLUME] を回して、音量を調節する。

再生を楽しんだ後は

音量を下げてから [POWER] を押して電源を切ってください。



サラウンドフォーマット表示について



ソースにより次の表示がでます。

- **PRO LOGIC:**
アナログソースを再生しているとき。またはドルビーデジタルフォーマットのソースを再生中にドルビープロロジック信号があるとき。
- **DTS:**
DTS フォーマットのソースを再生しているとき。
- **DIGITAL:**
ドルビーデジタルフォーマットのソースを再生しているとき。

DVD プレーヤー使用上のお願い

DVD プレーヤーを TV や CD の光デジタル端子に接続している場合は、手順 3 で DVD ではなく、CD または TV を選んでください。
このとき、テレビのビデオ入力も接続している端子に応じて切り換えてください。

DVD プレーヤーでカラオケを楽しむときのお願い

- DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しむ場合は、手順 4 で “ANALOG” を選んでください。
“DIGITAL” ではマイクの音が出力されません。
- DSP (再生) モードは “STEREO” もしくは、サラウンド効果を出したい場合には SFC の “HALL” に設定することをおすすめします。他のモードではマイクの音が歪むことがあります。
- DVD プレーヤーにアッテネータースイッチがあるときは「入」にしてください。「切」にしていると、マイクの音が歪むことがあります。

お知らせ

- ビデオを見ているときに他の入力 (TAPE、CD、TUNER、PHONO) に切り換えると、ビデオの音は消えますが映像はそのまま映ります。
- 再生モードは入力ソースごとに設定できます。いったん設定すると、後はソースを選ぶだけで自動的にそのモードに切り換わります。ただし、スピーカー B をオンにした段階で、記憶されていたモードは全て取り消され、STEREO モードになります。

- 本機のデジタル端子を通して再生できる信号はドルビーデジタル、DTS、PCM 信号※のみです。
サンプリング周波数が 96 kHz の信号やその他の信号 (MPEG) などは再生できません。
※PCM 信号: 音楽CDに使用されている信号記録フォーマット (44.1 kHz, リニア 16 ビット)

映画や音楽を楽しむ

SFC 各モードでの調整

リモコンのみ

ソースを楽しんでいるときにソースに応じて調整します。

センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーの出力レベルを調整する

- 1** [LEVEL] を押して、調整するスピーカチャンネルを選ぶ。
16～17ページの「スピーカーの設定」で“NONE”や“OFF”に設定したスピーカーは選択できません。
- 2** [–] または [+] を押して、出力レベルを調整する。
–10 dB から +10 dB の範囲で調整できます。

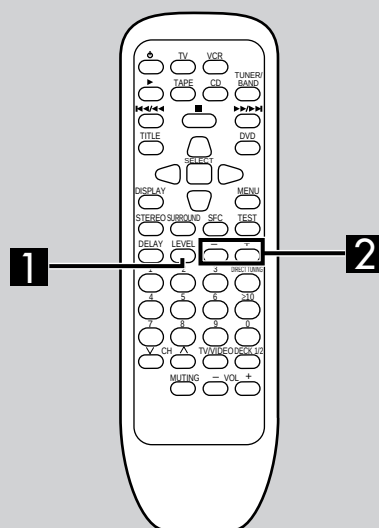
ディレイタイムを調整するには

サラウンドチャンネルのディレイタイムのみ設定できます。
ディレイタイムを調整すると、各 SFC モードの効果を調整することができます。

- 1** [DELAY] を押す。
- 2** [–] または [+] を押して、好みのディレイタイムを選ぶ。
10 ms 間隔で、10 ms から 100 ms の範囲で設定できます。

お知らせ

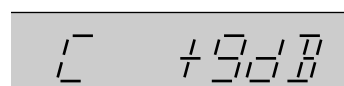
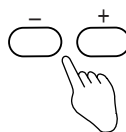
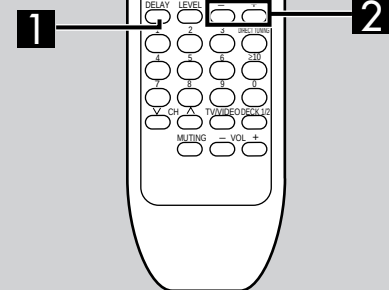
各 SFC モードごとに出力レベルとディレイタイムの設定ができます。

A

1

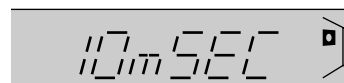
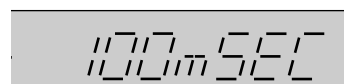
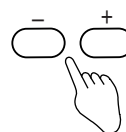
LEVEL



C → RS → LS → SW

2

B

1

DELAY


2


映画や音楽を楽しむ

インピーダンスが 6Ω未満のフロントスピーカーを使用する場合は 図

6Ω未満のフロントスピーカーを接続している場合は、本機を低インピーダンスモードにします。

[A] または [B] を、“LOW IMP”が表示されるまで（約 4 秒）押す。

お知らせ

“LOW IMP”が点灯している間は スピーカー A と B を同時に使用できません。A から B に切り換えるときは、いったん [A] を押して“A”表示を消した後、[B] を押してください。（逆も同様です。）

TAPE (MONITOR) ランプについて

このランプは次の場合に点灯します。

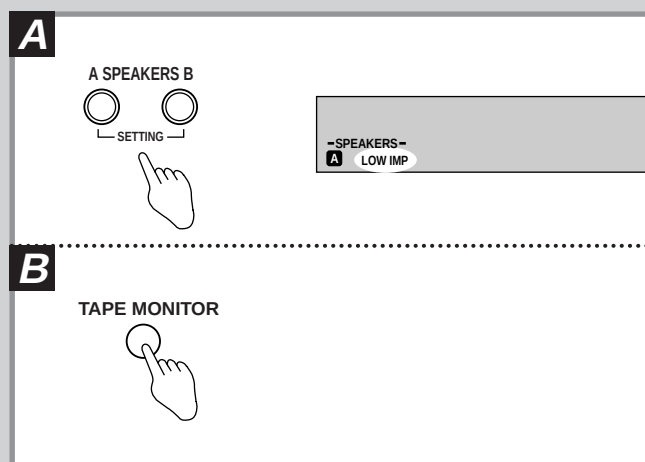
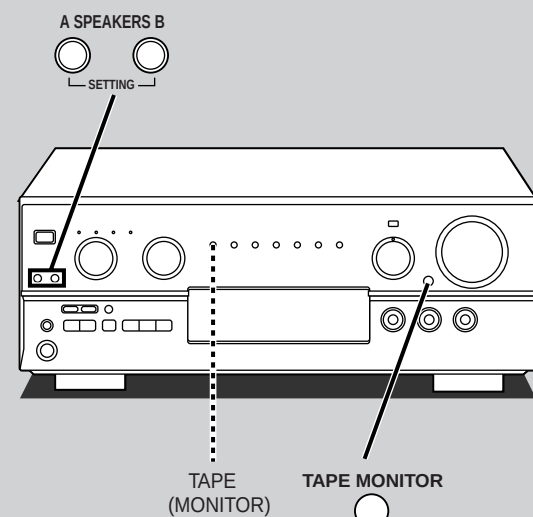
1. TAPE を選択しているとき。
2. テープをモニターしているとき。

テープをモニターするには 図

TAPE 以外の入力ソースを選んでいるときに、[TAPE MONITOR]を押すと、TAPE (MONITOR) ランプが点灯し、テープの録音状態をモニターできます。もう一度押すと、テープモニターは終了します。（➡ 32 ページ）

お知らせ

- TV, DVD あるいは CD の DIGITAL 入力を選択中にはテープモニターは使用できません。
- テープモニターを使用中に TV, DVD あるいは CD の DIGITAL 入力を選択するとテープモニターはオフになります。



映画や音楽を楽しむ

ラジオを聞く

基本の聞きかた

- 1 [INPUT SELECTOR] を回して“TUNER”を選ぶ。
- 2 [BAND] を押して“FM”または“AM”を選ぶ。
- 3 [TUNING ∨] または [TUNING ∧] を押して好みの放送局に合わせる。

自動選局するには（オートチューニング）

[TUNING ∨] または [TUNING ∧] を押したままにし、周波数表示が動き始めたら指を離してください。最初に受信した放送局で自動停止します。

お知らせ

周囲に電波妨害があると、放送局を受信せずにオートチューニングが停止することがあります。

FM ステレオ放送で雑音が多いときは

[FM MODE] を押してください。“STEREO”が消え“MONO”が点灯します。

放送はモノラル音声になりますが、雑音は減ります。ステレオに戻す場合はもう一度押してください。

ラジオを聞いているときにノイズを拾うときは

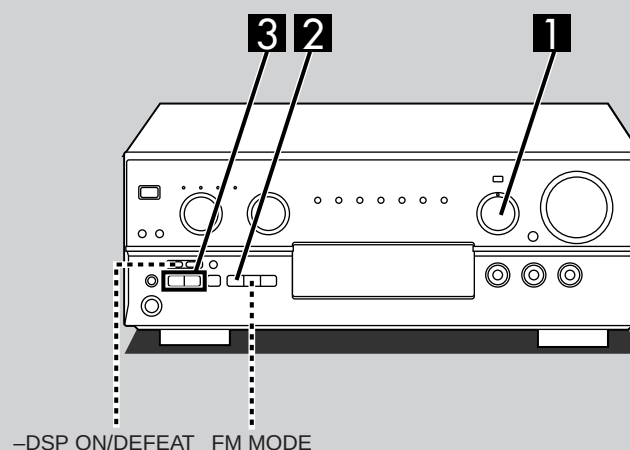
[−DSP ON/DEFEAT] を“DEFEAT”が表示されるまで（約 2 秒）押し続けてください。

DSP の動作を止めると改善される場合があります。

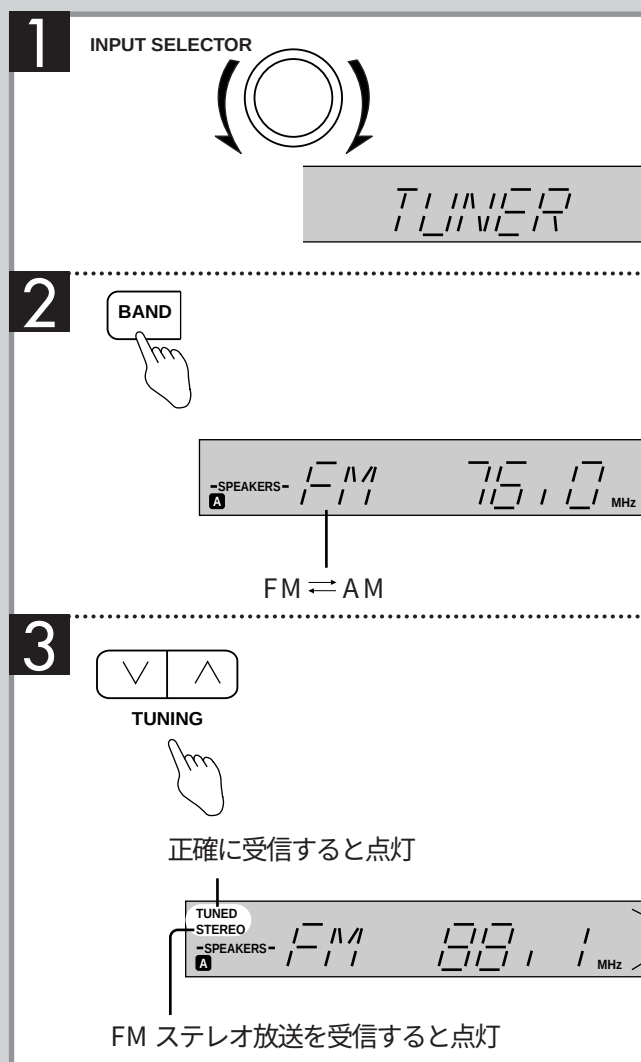
(⇒ 21 ページ)

ご参考

チューナーが DVD プレーヤーからノイズを拾うことがあります。そのときは、DVD プレーヤーの電源を切ってください。



−DSP ON/DEFEAT FM MODE



ラジオを聞く

放送局を直接指定する

リモコンのみ

リモコンの数字ボタンを使って直接放送局を指定することができます。

- 1** [TUNER/BAND] を押して“FM”または“AM”を選ぶ。
- 2** [DIRECT TUNING] を押す。
- 3** カーソルが点滅している間に数字ボタンを押して、周波数を入力する。

88.1 MHz に合わせたいときは、

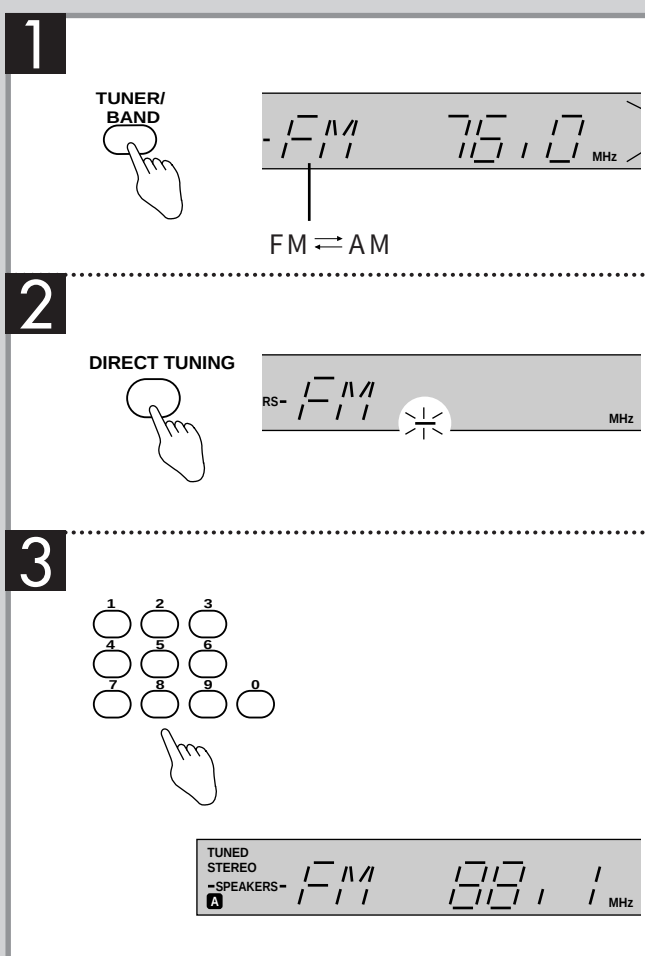
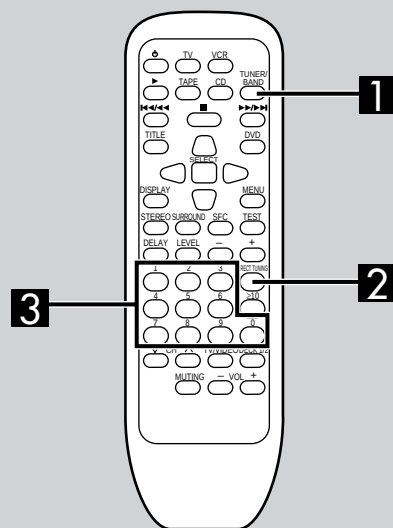
[8]→[8]→[1]を押す。

周波数が正しく入力されると、周波数が一度点滅し、その後、点灯状態になります。

お知らせ

間違った数値を入力すると、“ERROR”表示がでます。

そのときは、もう一度手順2よりやり直してください。



ラジオを聞く
放送局を選んで聞く

ラジオを聞く

放送局を記憶させて聞く

本機のプリセットチャンネルに周波数をメモリー（記憶）し、簡単なボタン操作で呼び出すことができます。最大 30 局までメモリーできます。

お知らせ

いったんメモリーしたチャンネルに再びメモリーすると、前の内容は消えますのでご注意ください。

自動で記憶させる（オートメモリー）

受信できる放送局を低い周波数から順に探して、自動で記憶していきます。

●FM 局のみをオートメモリーした場合

1 ～ 30 チャンネルに記憶されます。

●FM 局と AM 局をオートメモリーした場合

FM 局は 1 ～ 20 チャンネルに、AM 局は 21 ～ 30 チャンネルに記憶されます。（必ず先に FM 局から行ってください。逆にすると先に記憶した AM 局が消えてしまいます。）

1 一番低い周波数に合わせる。

FM : 76.0 MHz, AM : 522 kHz

2 [MEMORY] を押したままにし、周波数表示が変わり始めたら指を離す。

オートメモリーが始まり “M” が点滅します。

オートメモリーを途中で止める場合は、再び [MEMORY] を押してください。

放送局が記憶されると A

メモリーが行われたとき、そのチャンネルと “M” 表示が約 1 秒点灯します。

オートメモリーが終了すると

最後に記憶された放送局の周波数が表示されます。

お知らせ

電波が弱い、あるいは強すぎなどの理由で正確に記憶できないことがあります。この場合はマニュアルメモリーを行ってください。

手動で記憶させる（マニュアルメモリー） B

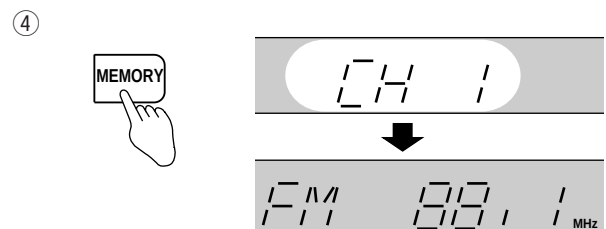
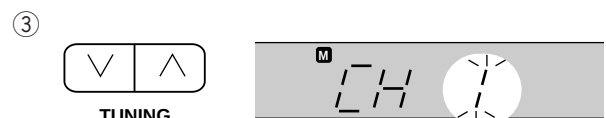
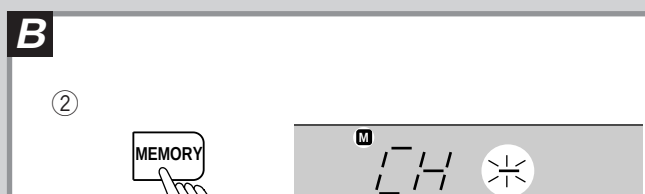
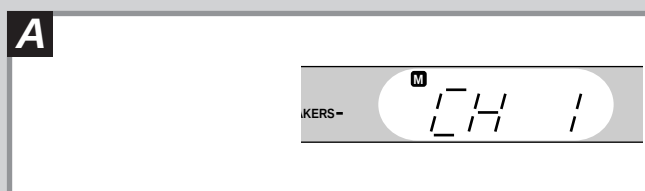
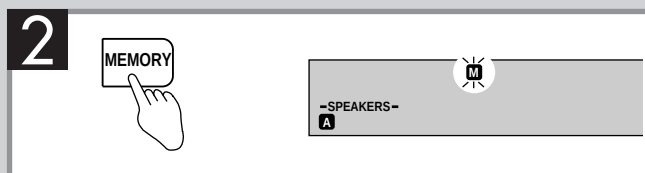
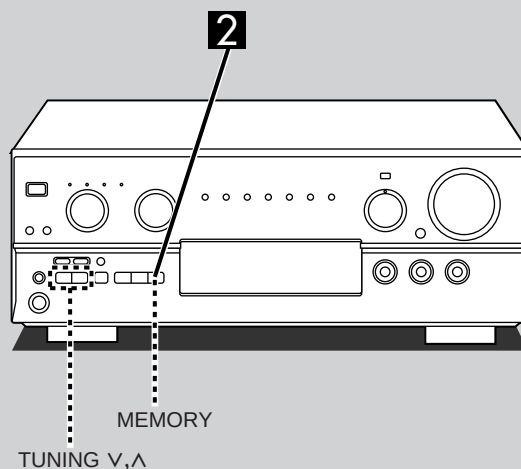
好みの放送局を好みのチャンネルに記憶させられます。（FM でも AM でも、自由にチャンネルを指定できます。）

① 好みの放送局を受信する。

② [MEMORY] を押す。

③ [TUNING V] または [TUNING 入] を押して記憶させるチャンネルを選ぶ。

④ [MEMORY] を押す。



ラジオを聞く

記憶した放送局を聞く

- 1** [PRESET] を押す。
- 2** [TUNING ∨] または [TUNING ∧] を押してチャンネルを選ぶ。
ボタンを押したままにすると、チャンネルを早送りできます。

チャンネルは約 5 秒間点滅します。別のチャンネルを選ぶ場合は、点滅の間に [TUNING ∨] または [TUNING ∧] を押してください。チャンネル番号に続き、受信した放送局の周波数が表示されます。(この後に別のチャンネルを選ぶ場合は、手順1 から行ってください。)

ご参考：

チャンネルの点滅の間に [PRESET] を押すと、受信した放送局の周波数表示になります。

聞いている放送局のチャンネルを確認するには [PRESET] を押してください。
チャンネルが約 5 秒表示されます。

お知らせ

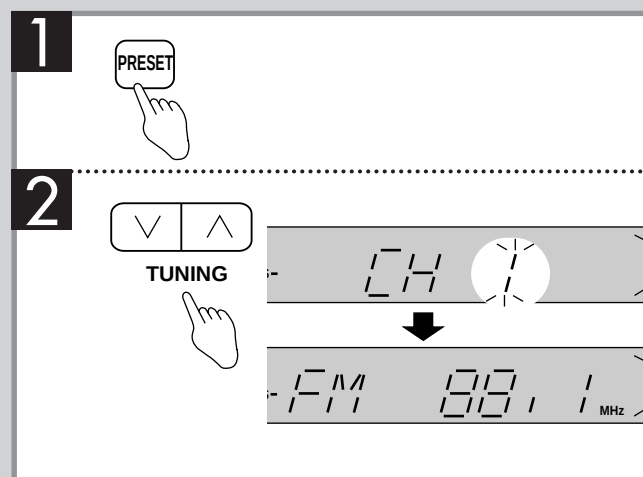
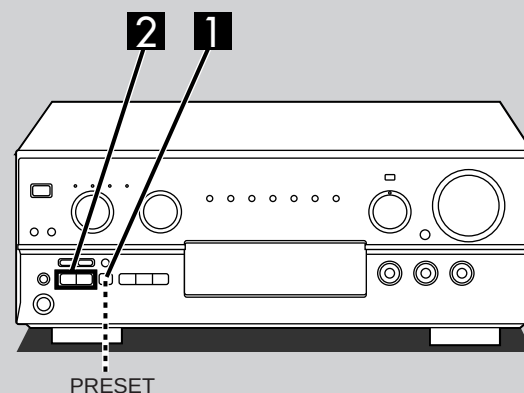
受信中に FM MODE を切り換えた場合、あるいはプリセットチューニング以外の方法で放送局を受信した場合はチャンネルは表示されません。

メモリーのバックアップについて

メモリーした内容は電源を切った後も保存されます。ただし、電源コードを抜くなどして1ヶ月ほど電源供給を行わないと消えてしまうことがあります。

メモリーが消えてしまったら

再度メモリーしてください。この場合、バックアップのために電源コードを 1 時間以上は接続した状態にしておいてください。



ラジオを聞く
放送局を記憶させて聞く

DVD 6CH INPUT

このモードは DVD プレーヤーのアナログ音声出力と本機の DVD 6CH 入力とを接続して (➡ 9 ページ)、6チャンネル再生をするときに使用します。

準備

スピーカー A をオンにしてください。

1 [INPUT SELECTOR] を回して “DVD” を選ぶ。

2 [DVD 6CH INPUT] を押して “DVD 6CH” を表示させる。

ご参考：

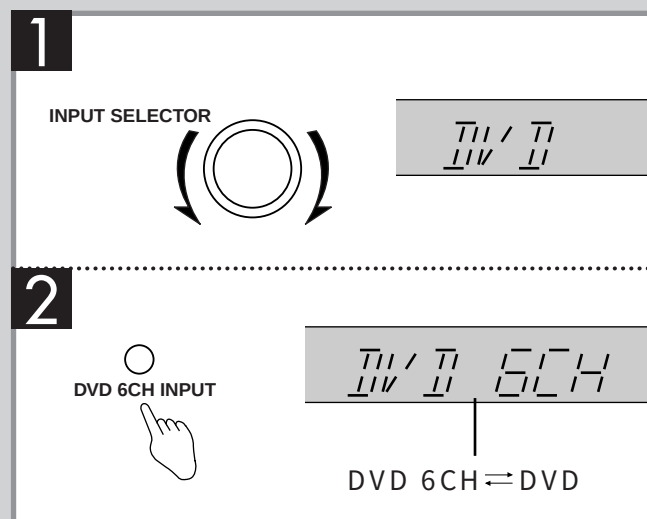
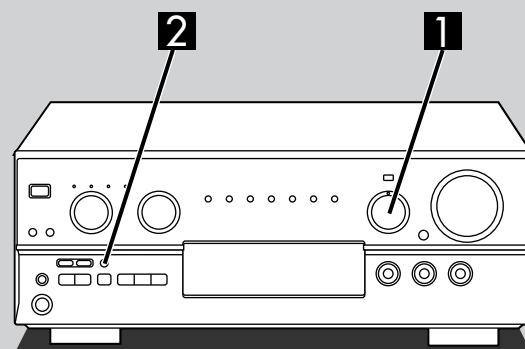
もし “DVD” 以外の入力 (CD、PHONO など) を選んでいた場合でも、このボタンを押すと “DVD 6CH” モードに切り換わります。

3 ソースの再生を始める。

くわしくはソース機器の説明書をご覧ください。

お知らせ

- DVD 6CH INPUT モードのときは、DSP の各モードを選択できません。
- このモードはスピーカー A でのみ使用できます。スピーカー B では、このモードは使用できません。また、スピーカー B をオンにした段階で、記憶されていたモードは全て取り消され、STEREO モードになります。
- DVD 6CH INPUT モードでは本機でのスピーカー設定 (➡ 16～17 ページ) は無効になります。必要ならば、DVDプレーヤなどで行なってください。



その他の機能

音質を調整する A

低音は [BASS] を回して調整する。
高音は [TREBLE] を回して調整する。

左右の音量バランスを調整する B

[BALANCE] を回して調整する。

一時的に消音する (ミュートイング) C

[MUTING] を押す。
ミュートイング中は表示パネルに “MUTING ON NOW”
の文字が流れます。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

お知らせ

本機の電源を切るとミュートイングは解除されます。

ヘッドホン (別売り) で聞く D

- ① [VOLUME] を回して音量を絞る。
- ② ヘッドホンを接続する。
プラグタイプ：ステレオ大型 (M6)
- ③ [VOLUME] を回して音量を調節する。

ヘッドホンを使用するときは、STEREO モードを選ぶか、
スピーカーをオフにしてください。スピーカーをオフに
すると、自動的に STEREO モードになります。
SURROUND や DTS モードでヘッドホンを使用しても、
十分な音を楽しむことはできません。

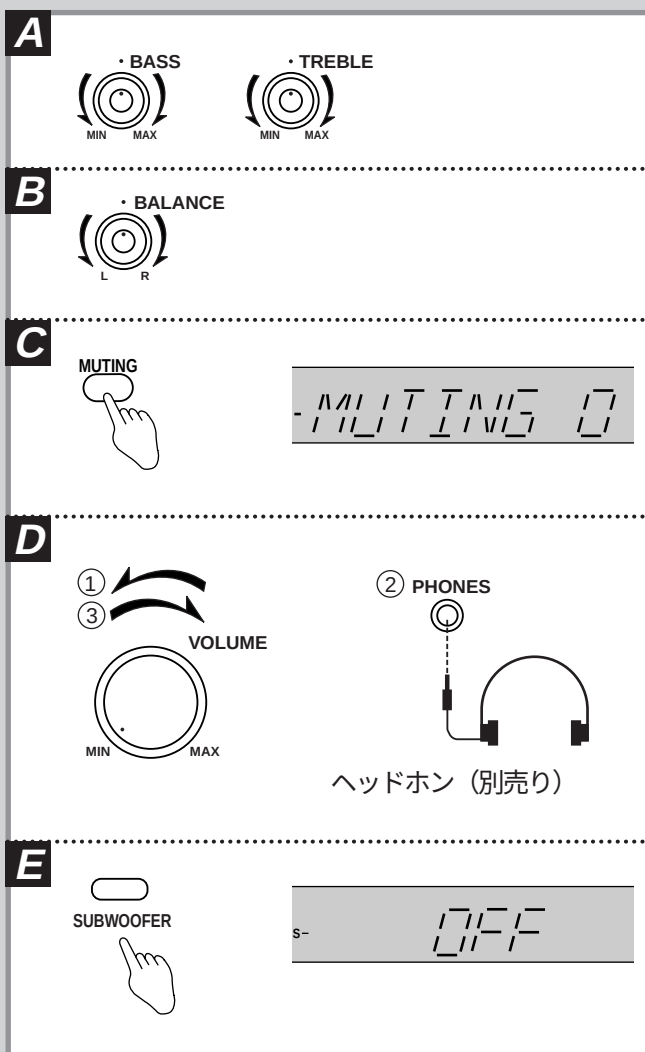
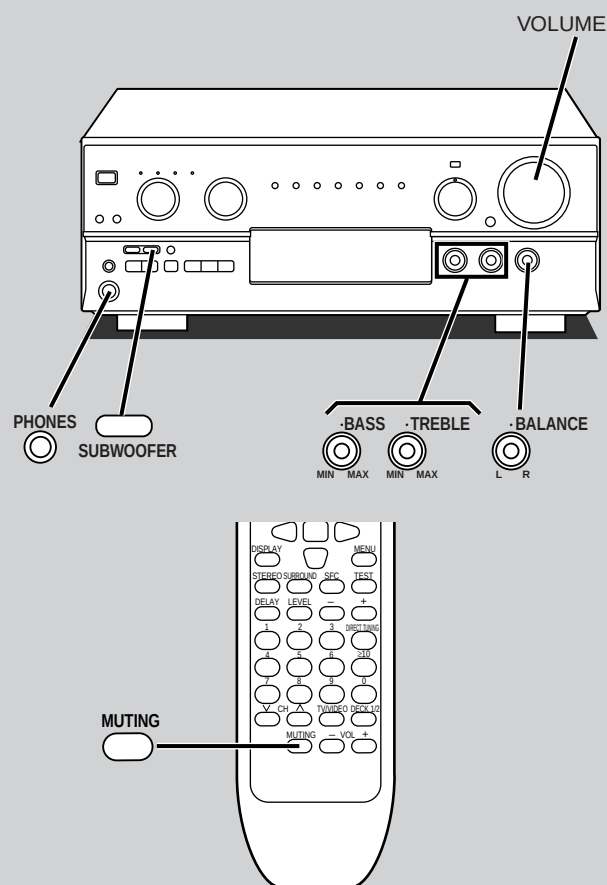
お願い

耳を刺激するような大きな音で長時間聞くことは避けて
ください。

サブウーハーを一時的にオフにする E

ステレオで音楽を聞いているときなどにサブウーハーの
音を一時的にオフにすることができます。

[SUBWOOFER] を押して、“OFF” を選ぶ。
(⇒ 17 ページ)



もっと使いこなす DVD 6CH INPUT・その他の機能

録音・録画

お願い

- デジタル端子のみで接続している機器からの録音はできません。
アナログ接続もして、アナログ入力を選んでください。
- DVD 6CH INPUT では、フロント以外のチャンネルの録音はできません。

カセットデッキに録音する

録音をスタートする前に、デッキ側を録音できる設定にしてください。(くわしくはカセットデッキの説明書をご覧ください)

1 [INPUT SELECTOR] を回して録音したいソース(“TAPE”以外)を選ぶ。

2 カセットデッキで録音をスタートし、ソースの再生を始める。
(カセットデッキや再生機器の説明書をご覧ください。)

テープをモニターするには

3 ヘッドのテープデッキをお使いの場合、録音している音の確認ができます。

本機の「TAPE MONITOR」押し、テープデッキのモニターボタンを“TAPE”にセットする。
(⇒ 25 ページ)

ビデオデッキに録画する

録画をスタートする前に、デッキ側を録画できる設定にしてください。(くわしくはビデオデッキの説明書をご覧ください。)

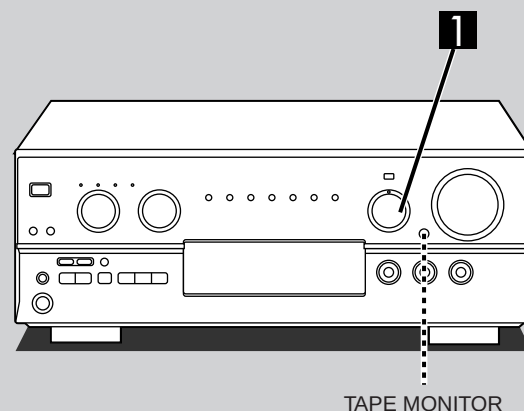
お知らせ

ビデオテープには ラジオ放送などを録音することもできます。ただし“TAPE”端子に接続したカセットデッキからは録音できません。

1 [INPUT SELECTOR] を回して録画したいソース(“VCR”、“TAPE”以外)を選ぶ。

2 ビデオデッキで録画をスタートし、ソースの再生を始める。
(ビデオデッキや再生機器の説明書をご覧ください。)

A



1

INPUT SELECTOR

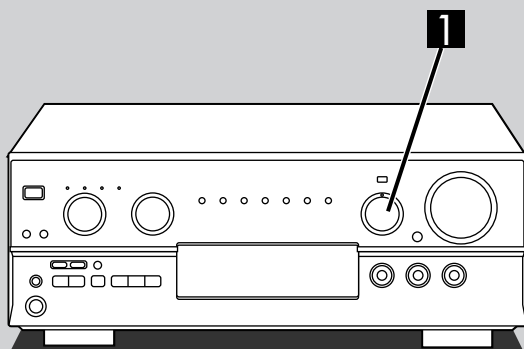


B

TAPE MONITOR



C



1

INPUT SELECTOR



ヘルプ・リセット機能

ヘルプ機能

再生を始めても音が出ないときや、気づかずに誤操作をしてしまったときなどにその原因や処置方法を表示します。

“ERROR”表示やスクロール表示(“SPEAKER OFF NOW”など)が出た場合にも行ってください。

[-HELP, -RESET] を押す。

リセット機能

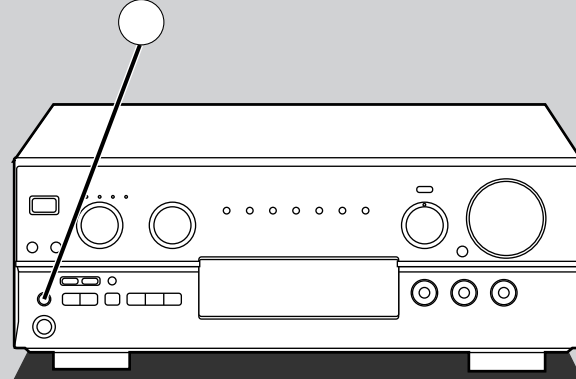
本機のさまざまな設定(ドルビーデジタルの出力調整など)を工場出荷時の状態に戻すことができます。

[-HELP, -RESET] を押したままにして(約 2 秒)、“RESET” が表示されたら指を離す。

お知らせ

放送局のプリセットメモリーはそのまま残ります。

-HELP
-RESET



-HELP
-RESET



その他

録音・録画

ヘルプ・リセット機能

ヘルプ/エラー表示一覧 ([HELP] を押したときの他、誤操作したときや電源を入れたときに表示されます。)

[HELP] を押したとき

SELECT SPEAKER A OR B	スピーカーシステムがオフになっています。 SPEAKERS の [A] または [B] を押してください。
SELECT ONLY SPEAKER A	スピーカー A しか選べません。
PRESS THE MUTING BUTTON ON REMOTE CONTROLLER	ミュート機能が働いています。 リモコンの [MUTING] を押して解除してください。
OPERATING CORRECTLY NOW	設定は正しく行われています。 音が出ない場合はコードの接続などを確認してください。
SWITCH OFF POWER	保護回路が働いています。 [POWER] を押して電源を切ってください。
ENTER CORRECT FREQUENCY	周波数が間違っています。正しく、入力してください。
ENTER THE FREQUENCY WITH THE NUMERIC BUTTONS	数字ボタンで周波数を選んでください。
SELECT THE DESIRED CHANNEL WITH THE TUNING BUTTONS	マニュアルメモリーの途中です。 [TUNING V] または [TUNING ^] で希望のチャンネルを選んでください。
PRESS THE MEMORY BUTTON	[MEMORY] を押して、マニュアルメモリーを完了させてください。

誤操作したとき

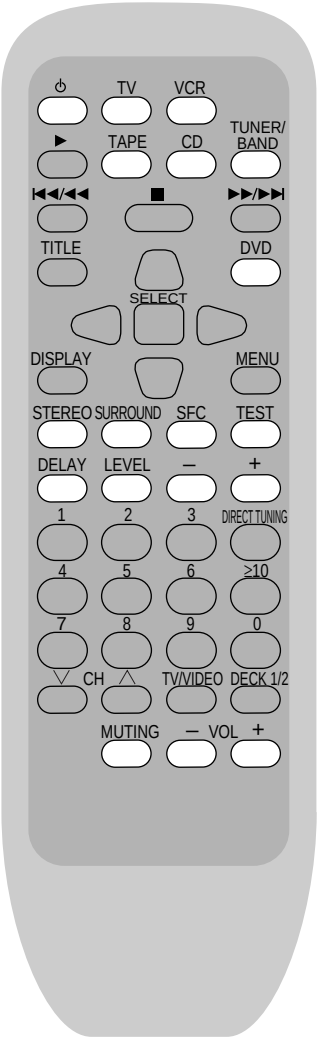
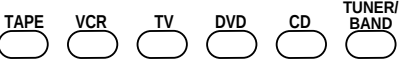
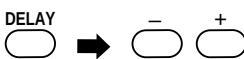
SELECT ONLY SPEAKER A OR B	“LOW IMP” の設定になっているため、スピーカーシステムは [A] か [B] の片方しか選べません。
NOT POSSIBLE WHEN SPEAKER B IS SELECTED	スピーカー B が選ばれているため SURROUND、DTS、SFC の各モード、および DVD 6CH INPUT は選べません。
SELECT ANOTHER SOUND MODE	そのフォーマットに合った再生モードを選んでください。
NOT POSSIBLE WHEN DIGITAL INPUT IS SELECTED	デジタル入力選択中は、テープモニターはできません。
NOT POSSIBLE IN 6CH DISCRETE INPUT	DVD 6CH INPUT 中は DSP の各モードを選べません。
DSP IS DEFEATED NOW	DSP の動作を停止させているため、DSP の各モードは選べません。
SELECT ANOTHER SOURCE	入力が TAPE のときはテープモニターは選べません。

電源を入れたとき

SPEAKER OFF NOW	スピーカーシステムが [A]、[B] ともオフになっています。
------------------------	---------------------------------

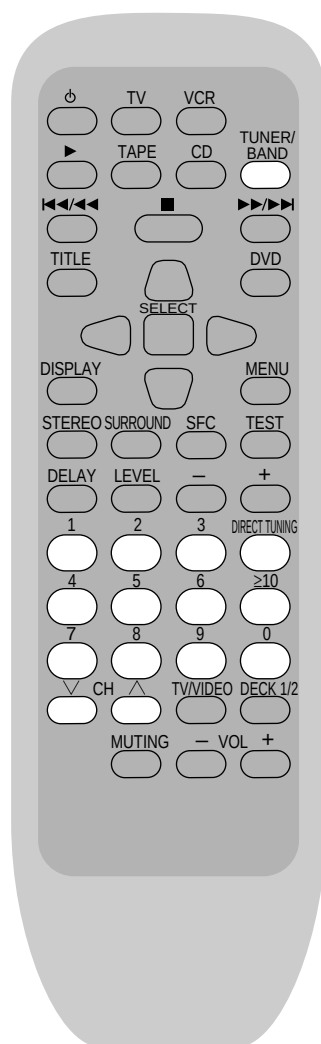
リモコンでの操作

本機の他、当社製のカセットデッキや CD プレーヤー、テレビ、ビデオデッキ、DVD プレーヤーを本リモコンで操作できます。（ただし本リモコンでは、操作のできないモデル、一部の操作のできないモデルがあります。）
各操作についてくわしくは、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

本機を操作する		
共通の操作		
本機に向けて  	電源を入/切する	TUNER/BAND 
	入力ソースを選ぶ/ リモコンを各操作モードにする	TAPE VCR TV DVD CD TUNER/BAND  お知らせ PHONO (プレーヤー) はリモコンでは選べません。
	STEREO モードを選ぶ	STEREO 
	SURROUND モードを選ぶ	SURROUND 
	SFC モードをオンにする/選ぶ	SFC  押すたびに SFC モードが切り換わります。 HALL → CLUB → LIVE → THEATER SIM SURR (SIMULATED)
	テスト信号を出す	[SURROUND モードで] TEST  テスト信号を止めるときは再び押してください。
	スピーカーチャンネルを選び、出力レベルを調整する	[SURROUND, DTS, SFC の各モードで] LEVEL 
	(STEREO 時に) サブウーハーの出力レベルを調整する	
	スピーカーチャンネルを選び、ディレイタイムを調整する	[SURROUND, SFC の各モードで] DELAY 
一時的に消音する (ミュートイング)		MUTING  ミュートイングの間は “ MUTING ON NOW ” のメッセージが本体の表示パネルに流れます。 元の音量に戻すときは再び押してください。
	音量を調節する	

ラジオ放送を聞く

本機に向けて



チューナー操作モードに切り換える



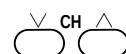
以下の操作の前に必ず行ってください。

バンド（FM、AM）を選ぶ

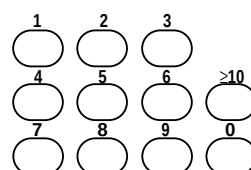


押すたびにバンドが切り換わります。

チャンネルを順に選ぶ



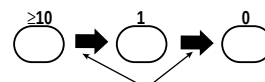
チャンネルを直接選ぶ



(例：チャンネル1)

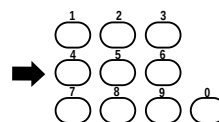


(例：チャンネル 10)

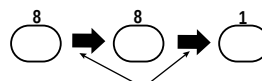


10 秒以内に

放送局を直接選ぶ



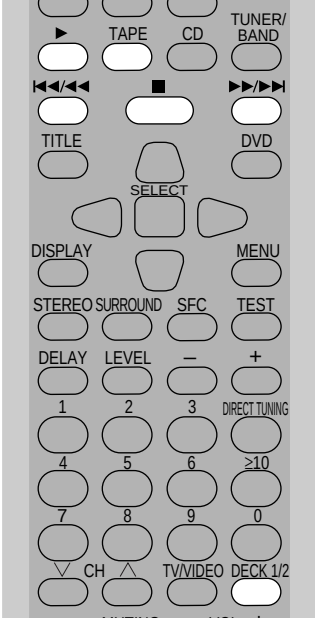
(例：88.1 MHz)



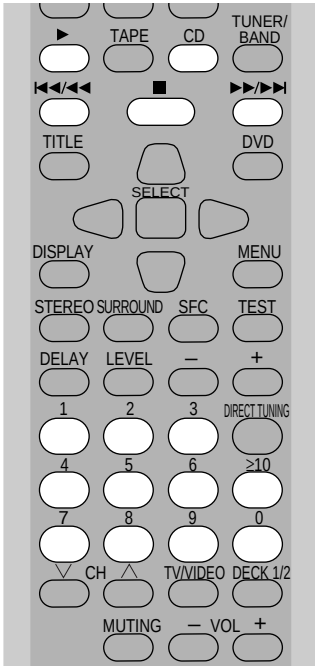
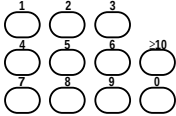
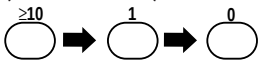
10 秒以内に

リモコンでの操作

カセットテープを聞く

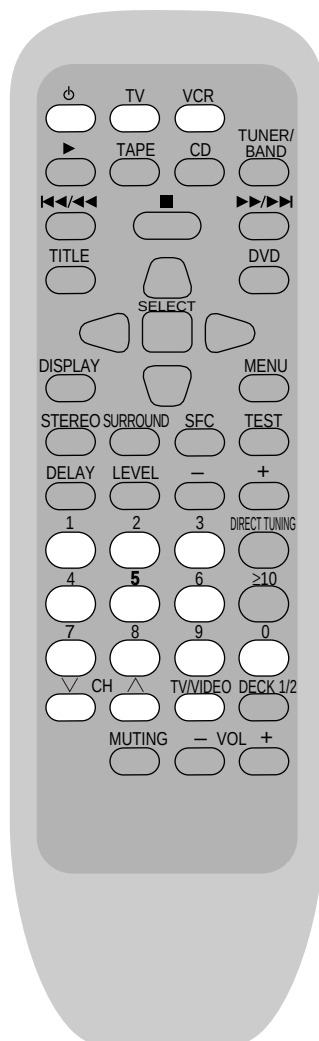
カセットデッキに向けて  	リモコンをカセットデッキ操作モードに切り換える		<u>カセットデッキ操作の前に必ず行ってください。</u>
	ダブルカセットデッキのみ デッキ1と2を切り換える		
	再生を始める		
	早送り/巻き戻しをする	 	
	再生を停止する		

CD を聞く

CD プレーヤーに向けて  	リモコンをCD プレーヤー操作モードに切り換える		<u>CD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。</u>
	再生を始める		
	好みの曲を選ぶ	 (例：曲番 1)  (例：曲番 10) 	
	曲を飛び越す (スキップ)	 	
	早送り/早戻しをする (サーチ)	 	
	再生を停止する		

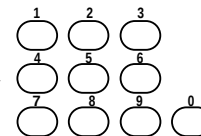
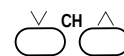
テレビ番組を見る

ここでは 8, 10 ページの、テレビとビデオデッキの接続方法に合わせて説明しています。
(各操作については、テレビ、ビデオデッキの説明書もご参照ください。)



テレビのチューナーを使って見る場合

[リモコンを
本機に向けて]



本機の入力を “TV” に切り換える (同時にリモコンがテレビ操作モードになります。)

テレビの電源を入れる

テレビの TV/VIDEO 入力切換を “TV” にする

チャンネルを選ぶ

ビデオデッキ (VCR) のチューナーを使って見る場合

ビデオデッキの入力をチューナーに切り換えてください。

[リモコンをテレビに向けて]



テレビの電源を入れる

テレビの TV/VIDEO 入力切換を “VIDEO” にする

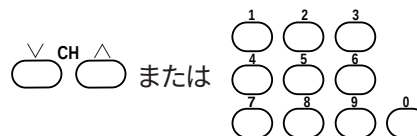
[リモコンを
本機に向けて]

[リモコンをビデオ
デッキに向けて]

本機の入力を “VCR” に切り換える (同時にリモコンがビデオデッキ操作モードになります。)

ビデオデッキの電源を入れる

[リモコンをビデオデッキに向けて]



チャンネルを選ぶ

テレビの電源を切るには



ビデオデッキの電源を切るには



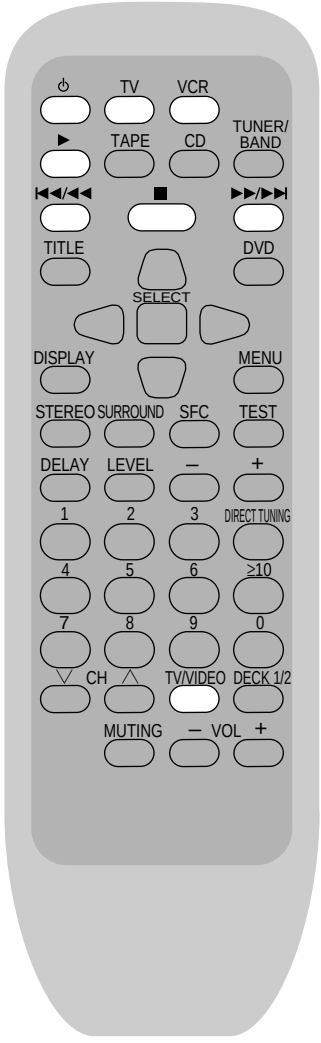
お知らせ

本機とテレビ (またはビデオデッキ) の両方に向けて [TV] (または [VCR]) と [⏻] を続けて押すと、本機とテレビ (またはビデオデッキ) の電源を入ると同時に、本機の入力を [TV] (または [VCR]) に切り換えることができます。

リモコンでの操作

ビデオを見る

ここでは 8, 10 ページの、テレビとビデオデッキの接続方法に合わせて説明しています。
(各操作については、テレビ、ビデオデッキの説明書もご参照ください。)



[リモコンをテレビに向けて]

TV → [Power] → TV/VIDEO → [Power] → VCR → [Power]

テレビの電源を入れる

テレビの TV/VIDEO 入力切換を “VIDEO” にする

本機の入力を “VCR” に切り換える (同時にリモコンがビデオデッキ操作モードになります。)

ビデオデッキの電源を入れる

[リモコンをビデオデッキに向けて]

再生を始める

巻き戻し/早送りをする	[Fast Rewind] [Fast Forward]
再生を停止する	[Stop]

テレビの電源を切るには

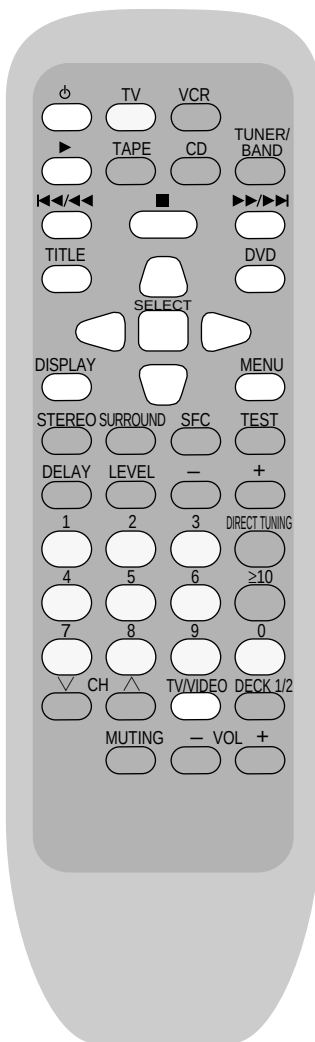
TV → [Power]

ビデオデッキの電源を切るには

VCR → [Power]

DVD を見る

ここでは 8 ページの、テレビと DVD プレーヤー の接続方法に合わせて説明しています。
(各操作については、テレビ、DVD プレーヤーの説明書もご参照ください。)



[リモコンをテレビに向けて] TV → [電源] → TV/VIDEO テレビの電源を入れる テレビの TV/VIDEO 入力切替をする	[リモコンを本機に向けて] DVD 本機の入力 “DVD” に切り換える (同時にリモコンが DVD プレーヤー操作モードになります。) [リモコンを DVD プレーヤーに向けて] [電源] → [再生] DVD プレーヤーの電源を入れる 再生を始める
タイトルを選ぶ	TITLE → [方向] → [SELECT] 再生が始まる
メニューを使う	MENU → [方向] → [SELECT] 再生が始まる
GUI画面を利用する GUI (グラフィック・ユーザー・インターフェース) 機能のない DVD プレーヤーもあります。	DISPLAY → [方向] → [SELECT] 再生が始まる または 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
見たい場所を探す	[快進] [遅進]
再生を停止する	[停止]
テレビの電源を切るには TV → [電源]	DVD プレーヤーの電源を切るには DVD → [電源]

主な仕様

■ アンプ部

定格出力 (ドルビープロロジック時)

フロント	60 W + 60 W (1 kHz 6 Ω 0.9 %)
センター	60 W (1 kHz 6 Ω 0.9 %)
サラウンド	60 W + 60 W (1 kHz 6 Ω 0.9 %)

実用最大定格 (ドルビープロロジック時)

フロント	80 W + 80 W (6 Ω)
センター	80 W (6 Ω)
サラウンド	80 W + 80 W (6 Ω)

定格出力 (ステレオ時)

50 W + 50 W (20 Hz ~ 20 kHz 6 Ω 0.09 %)

定格ひずみ率 (20 Hz ~ 20 kHz 定格出力)

0.09 % (6 Ω)

全高調波ひずみ率 (1 kHz 定格出力) 0.09 % (6 Ω)

ダンピングファクター 25 (6 Ω)

負荷インピーダンス

フロント	
A または B	4 ~ 16 Ω
A と B	8 ~ 16 Ω
センター	6 ~ 16 Ω
サラウンド	6 ~ 16 Ω

周波数特性

PHONO	RIAA カーブ ± 1 dB
CD, TAPE, DVD, VCR, TV	20 Hz ~ 20 kHz, ± 1 dB

入力感度/入力インピーダンス

PHONO	3 mV / 47 kΩ
CD, TAPE, DVD, VCR, TV	200 mV / 22 kΩ

信号対雑音比 (S/N 比)

PHONO	70 dB
CD, TAPE, DVD, VCR, TV	75 dB

トーンコントロール特性

BASS	50 Hz, +10 ~ -10 dB
TREBLE	20 kHz, +10 ~ -10 dB

定格出力電圧

TAPE REC OUT	200 mV
VCR OUT	200 mV

デジタル入力

光	CD, TV
同軸 (入力インピーダンス 75 Ω)	DVD

■ FM チューナー部

受信周波数帯 76.0 ~ 90.0 MHz

実用感度 11.2 dBf (2 μV, IHF '58)

50 dB S/N 感度

MONO	18.3 dBf (4.5 μV, IHF '58)
STEREO	38.3 dBf (45 μV, IHF '58)

全高調波ひずみ率

MONO	0.2 %
STEREO	0.3 %

信号対雑音比 (S/N 比)

MONO	73 dB
STEREO	67 dB

周波数特性 20 Hz ~ 15 kHz, +1 dB, -2 dB

実用選択度 (±400 kHz) 60 dB

ステレオセパレーション

1 kHz 40 dB

リークキャリア

19 kHz -35 dB

アンテナ端子 75 Ω (不平衡型)

■ AM チューナー部

受信周波数帯 522 ~ 1629 kHz

実用感度 20 μV, 600 μV/m

選択度 (±9 kHz) 40 dB

IF 妨害比 (999 kHz) 50 dB

■ 映像部

出力電圧 (1 V 入力時) 1 ± 0.1 Vp-p

最大入力電圧 1.5 Vp-p

入出力インピーダンス (アンバランス) 75 Ω

■ スピーカー出力 (ステレオ時)

DIN 1 kHz (T. H. D. 1 %) 60 W + 60 W

■ 総合

電源 AC 100 V, 50/60 Hz

消費電力 210 W

寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)

430 × 158.2 × 320.5 mm

質量 9.5 kg

POWER ボタン STANDBY 時の消費電力 0.9 W

注)

- この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
- 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる 10 次高調波までの総和です。

Q & A

Q (質問)	A (回答)	参照ページ
マイクを接続したい。	本機には接続できません。	—
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音がない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、デジタル入力を“ANALOG”にしてください。	9, 22, 23
DVD プレーヤーでもスピーカー設定やレベルの調整ができるが、どちらすべきか。	本機とデジタル接続している場合は、本機で調整してください。 本機の DVD 6CH 入力と DVD プレーヤーの音声出力をアナログ接続している場合はDVDプレーヤーで行ないます。	16～19 9, 30
DVD プレーヤーのデジタル音声出力に同軸がなく、光しかない。接続できないのか。	CD あるいは TV のデジタル端子に何も接続していない場合はそちらに接続すれば、使用することができます。ただし、このときリモコンで操作しようとする、39 ページのとおり操作できないことがありますので、DVD プレーヤーを操作するときは、DVD プレーヤー付属のリモコンをお使いになることをおすすめします。	9, 23
DTS の音声がない。	DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確認してください。	—
LD プレーヤーのドルビーデジタル RF 出力端子と接続できるか。	本機はドルビーデジタル RF 信号には対応していません。接続の際には、市販の RF デモデューレーターが必要です。	—
パッシブ (アンプ非内蔵型) のサブウーハーは接続できるか。	本機のサブウーハー端子に直接接続することはできません。パワーアンプを通して接続することになります。また、サブウーハーによってはフロントスピーカー端子に接続するものもあります。くわしくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。	15
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、本機の上に物を置いて放熱を妨げることはしないでください。特に、通気孔はふさがらないでください。	—
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。	—

故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

なお、これらの処理をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

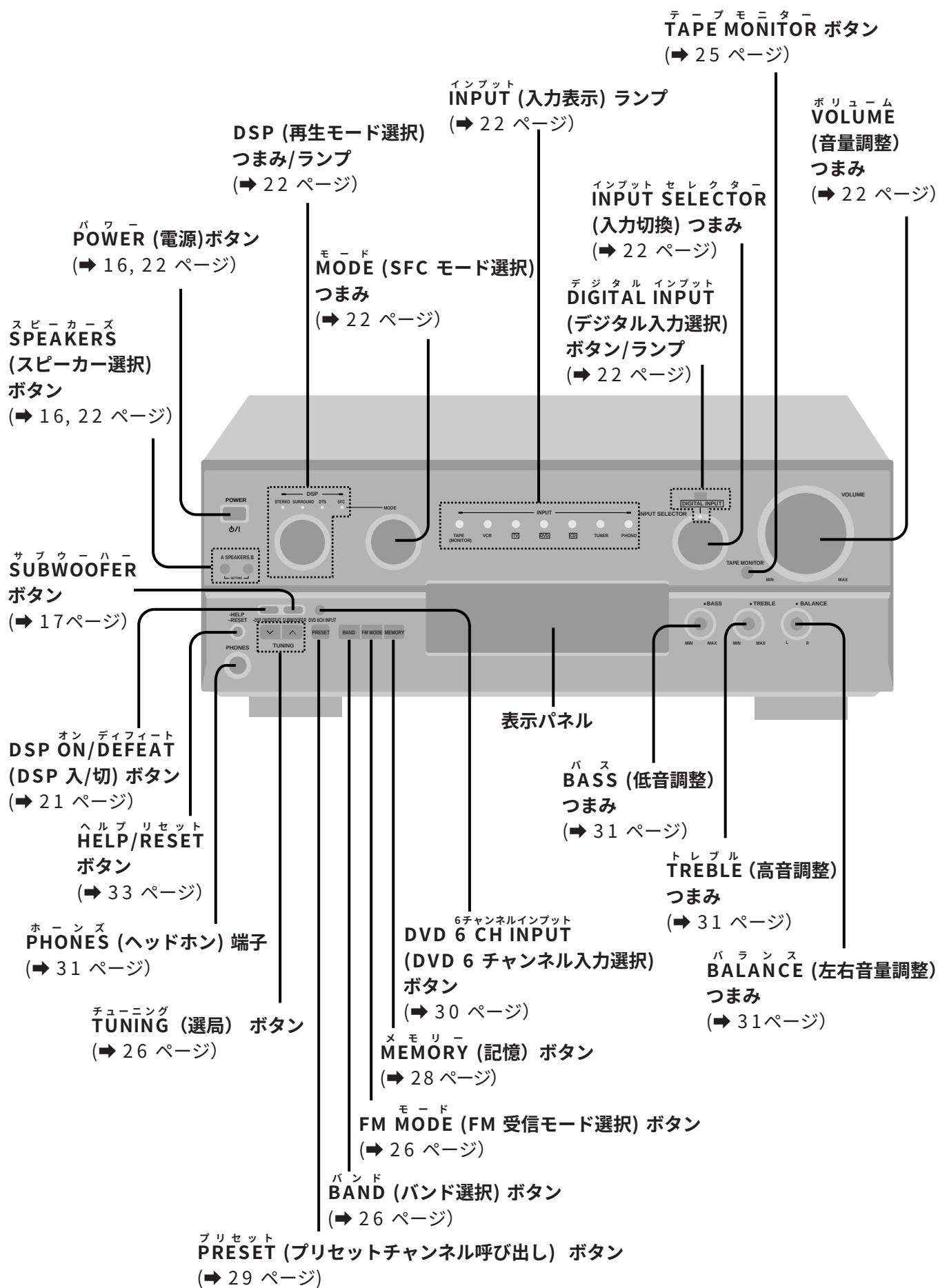
こんなときは	ここをご確認ください	処理	参照ページ
共通の項目			
電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けていませんか。	● プラグを確実に差し込む。	11
機器の再生を始めても音や映像が出ない。	スピーカー表示が消灯していませんか。	● スピーカー表示を点灯させる。	22
	入力ソースの選択が違っていませんか。	● 正しく選択する。	22
	テープモニターがオンになっていませんか。	● テープモニターをオフにする。	25
	ミュート機能がオンになっていませんか。	● ミュート機能をオフにする。	31
	スピーカーや機器の接続が間違っていないか。	● 接続を確認する。	8～11, 14, 15
再生中に音が出なくなった。 本機は音声信号の異常を検出すると、保護回路が働いて信号を自動的に遮断します。 (“OVERLOAD”が表示されます。)	スピーカーコードの⊕と⊖がショートしていませんか。	● 1) 本機の電源を切る。 2) 原因を解消する。 3) しばらく待ってから再び電源を入れる。(保護回路が解除されます。)	14, 15
	スピーカーのインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。(“LOW IMP”設定もご確認ください。)		14, 15, 25
	著しい大音量で聞いたり、異常に暑い場所で使用していませんか。		—
表示窓に“F70”表示が点灯している。		● 電源を入れ直す。電源プラグをコンセントに差し直す。 (それでも“F70”表示が消えない場合は販売店にご相談ください。)	—
リモコンが働かない。	電池が消耗していませんか。	● 新しい電池と交換する。	—
サラウンドの音を聞いているとき			
センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーから音が聞こえない。	スピーカーの設定で“NONE”や“OFF”に設定していませんか。	● 正しくスピーカー設定を行なう。	16, 17
	再生モードを“STEREO”にしていませんか。	● SURROUND あるいは DTS, SFC を選ぶ。	22
	(DVD 6CH INPUT 時) DVD プレーヤーの設定が間違っていないか。	● DVD プレーヤーの設定を確かめてみる。	30
DTS フォーマットのソースを SURROUND で再生できない。	SURROUND では判定できない DTS のソースです。	● 再生モードを DTS にしてください。	20
Dolby Digital, DTS のソースを再生しても音が出ない。	DSP が SFC になっていませんか。	● それぞれのフォーマットにあった再生モードにする。	22
SURROUND, DTS, SFC の各モードが選択できない。	DSP が DEFEAT になっていませんか。	● DSP ON を選ぶ。	21

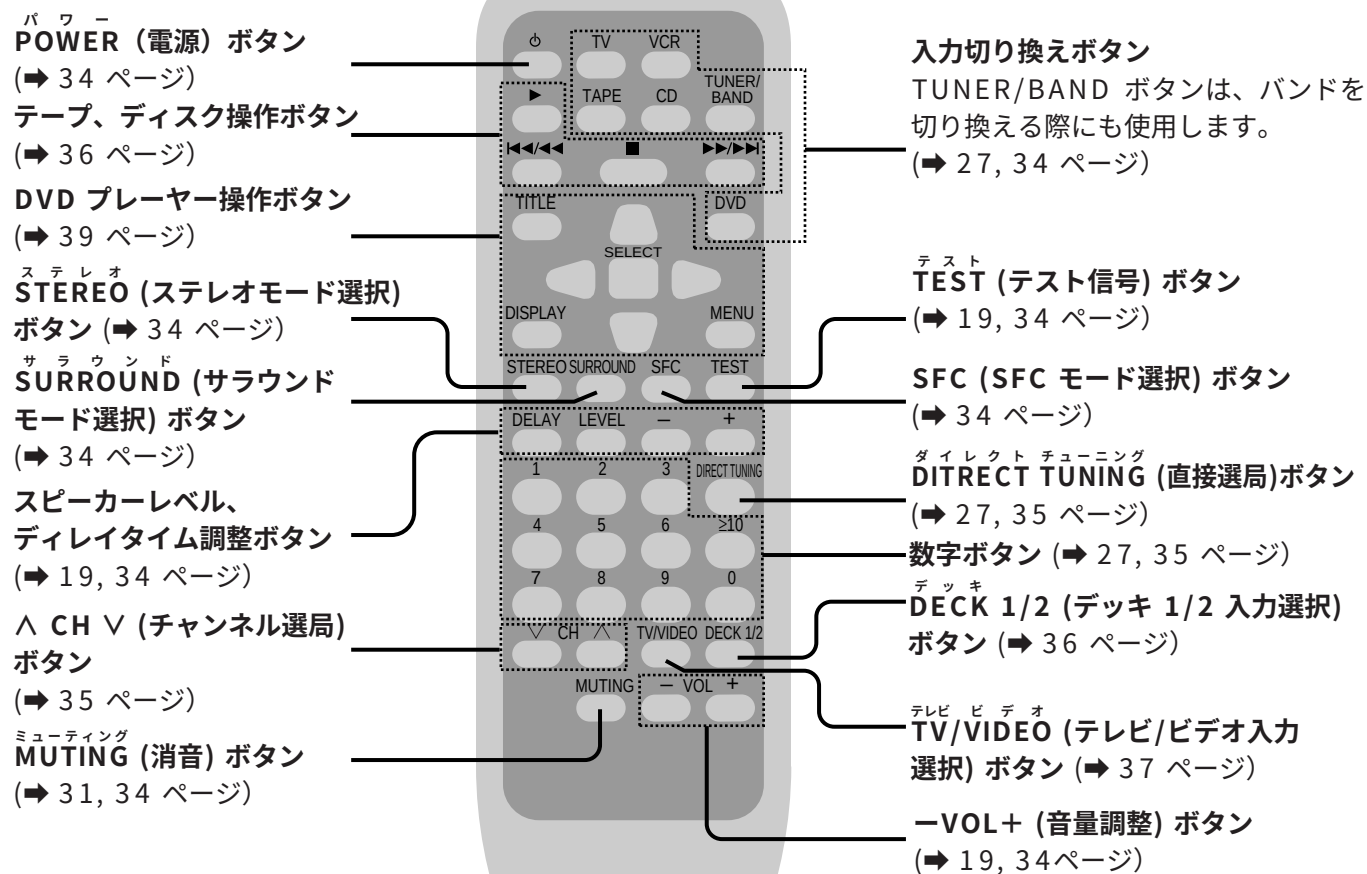
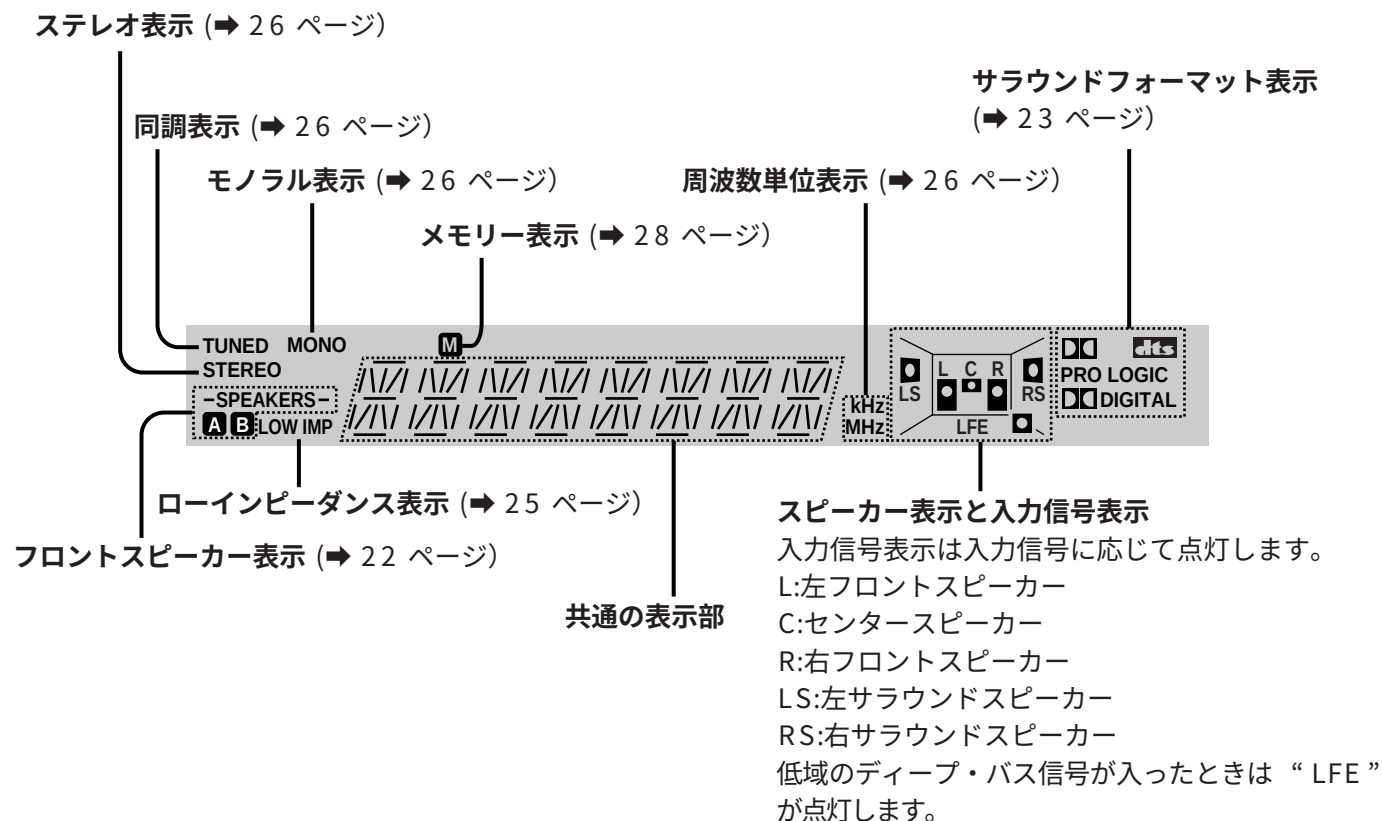
こんなときは	ここをご確認ください	処理	参照ページ
FM 放送を聞いているとき			
ステレオ放送で「シャー」という雑音（ヒスノイズ）が多い。		- モノラル受信に切り換えてみる。 [TREBLE] つまみで高音を絞ってみる。	26 31
モノラル受信に切り換えても雑音が減らない。	アンテナの位置は適当ですか。 送信所が遠くありませんか。 DSP が ON になっていませんか。	- アンテナの向きや高さ、位置を変えてみる。 - 室内アンテナを使用している場合は屋外アンテナに替えてみる。	12, 13 13
“STEREO” 表示や “TUNED” 表示が完全に点灯しない。		- 高感度の専用アンテナに替える。 - DSP を DEFEAT にしてみる。	— 21
ステレオ放送でひずみが多い。	近くに山や大きなビルディングなどがありますか。		
AM 放送を聞いているとき			
「ピーピー」「チーチー」という雑音（ビート音）が入る。	テレビやビデオデッキ、BS チューナーなどを同時に使用していませんか。	各機器との距離を十分に離すか、それらの電源を切る。	—
	聞いている周波数のすぐ近くに別の放送局がありませんか。	[TREBLE] つまみで高音を絞ってみる。	31
	DSP が ON になっていませんか。	DSP を DEFEAT にしてみる。	21
「ブーン」という低い音（同調ハム）が入る。	AM 室内アンテナが電源コードやスピーカーコードに接近していませんか。	アンテナと他のコードを遠ざける。	—
「シャー」という雑音（ヒスノイズ）が連続して、または断続的に入る。	蛍光灯や、テレビ、モーター、整流器などが近くにありませんか。（電気機器の放電現象などが電波に影響を与えている。）	本機を、雑音の原因となる機器からできるだけ離す。	—

もし必要なとき

故障かな！？

各部のなまえ





保証とアフターサービス

(よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れ

などのご相談は・・・

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 修理を依頼されるとき

42～43 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときはまず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- **保証期間中は**
保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。
- **保証期間が過ぎているときは**
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。
ただし、AV コントロールアンプの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。
注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **修理料金のしくみ**
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ナショナル／パナソニック

お客様ご相談センター

パナは 365 日
0120-878-365

フリーダイヤル（料金無料）

365 日／受付 9 時～20 時

International Customer Care Center

ナショナル／パナソニック 海外ご相談センター

Consultation about products of specifications (export models, overseas production models and tourist models)

海外仕様商品（輸出商品・海外生産品・ツーリスト製品）についてのご相談は・・・

TOKYO ☎ (03)3256-5444

OSAKA ☎ (06)6645-8787

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

ナショナル／パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

北 海 道 地 区

札幌 ☎ (011)894-1251
札幌市厚別区厚別南
2丁目17-7旭川 ☎ (0166)31-6151
旭川市2条通21丁目
左1号帯広 ☎ (0155)33-8477
帯広市西19条南
1丁目7-11函館 ☎ (0138)48-6631
函館市西桔梗589番地
241 (函館流通卸
センター内)

近 畿 地 区

滋賀 ☎ (077)582-5021
守山市勝部町6丁目
2-1京都 ☎ (075)672-9636
京都市南区
上鳥羽石橋町20-1大阪 ☎ (06)6359-6225
大阪市北区本庄西
1丁目1-7奈良 ☎ (0743)59-2770
大和郡山市椎木町
404-2和歌山 ☎ (0734)75-1311
和歌山市中島499-1兵庫 ☎ (078)272-6645
神戸市中央区
琴ノ緒町3丁目2-6

東 北 地 区

青森 ☎ (0177)39-9712
青森市大字ハッ役
字矢作1-37秋田 ☎ (018)826-1600
秋田市御所野湯本
2丁目1-2岩手 ☎ (019)639-5120
盛岡市羽場13地割
30-3宮城 ☎ (022)375-2512
仙台市泉区市名坂
字清水端59-2山形 ☎ (023)641-8100
山形市流通センター
3丁目12-2福島 ☎ (0243)34-1301
福島県安達郡本宮町
字南ノ内65

中 国 地 区

鳥取 ☎ (0857)26-9695
鳥取市安長295-1米子 ☎ (0859)34-2129
米子市米原4丁目
2-33松江 ☎ (0852)23-1128
松江市西津田2丁目
10-19出雲 ☎ (0853)21-3133
出雲市渡橋町416浜田 ☎ (0855)22-6629
浜田市下府町
327-93岡山 ☎ (086)292-1162
岡山県都窪郡早島町
矢尾807広島 ☎ (082)295-5011
広島市西区南観音
8丁目13-20山口 ☎ (0839)86-4050
山口市鑄銭司
字鑄銭司団地北
447-23

首 都 圏 地 区

栃木 ☎ (028)632-8450
宇都宮市中央1丁目
8-13群馬 ☎ (027)352-1217
高崎市萩原町沖中
205-18水戸 ☎ (029)225-0119
水戸市柳河町309-2つくば ☎ (0298)64-8090
つくば市花畑2丁目
8-1埼玉 ☎ (048)728-8960
桶川市赤堀2丁目4-2千葉 ☎ (043)208-6011
千葉市中央区
星久喜町172船橋 ☎ (047)334-5111
船橋市本中山6丁目
11-7柏 ☎ (0471)63-8905
柏市北柏1丁目6-6東京 ☎ (03)5477-9780
東京都世田谷区宮坂
2丁目26-17山梨 ☎ (0552)22-5171
甲府市下飯田2丁目
1-27神奈川 ☎ (045)847-9720
横浜市港南区日野
5丁目3-16新潟 ☎ (025)286-7725
新潟市東明1丁目
8-14

四 国 地 区

香川 ☎ (087)868-9477
高松市勅使町152-2徳島 ☎ (0886)98-1125
徳島県板野郡北島町
鯛浜字かや108高知 ☎ (0888)66-3142
南国市岡豊町中島
331-1愛媛 ☎ (089)971-2144
松山市土居田町
750-2

九 州 地 区

福岡 ☎ (092)593-9036
春日市春日公園
3丁目48佐賀 ☎ (0952)26-9151
佐賀市本庄町
大字本庄896-2長崎 ☎ (095)830-1658
長崎市東町1949-1大分 ☎ (097)556-3815
大分市萩原4丁目
8-35宮崎 ☎ (0985)85-6530
宮崎県宮崎郡清武町
下加納366-2熊本 ☎ (096)367-6067
熊本市健軍本町12-3天草 ☎ (0969)22-3125
本渡市港町18-11鹿児島 ☎ (099)250-5657
鹿児島市与次郎
1丁目5-33大島 ☎ (0997)53-5101
名瀬市矢之脇町
10-5

中 部 地 区

石川 ☎ (076)294-2683
石川県石川郡野々市町
稲荷3丁目80富山 ☎ (0764)32-8705
富山市寺島1298福井 ☎ (0776)54-5606
福井市開発4丁目112長野 ☎ (0263)58-0073
松本市大字笹賀
7600-7静岡 ☎ (054)287-9000
静岡市西島765名古屋 ☎ (052)819-0225
名古屋市瑞穂区
塩入町8-10岡崎 ☎ (0564)55-5719
岡崎市岡町南久保28岐阜 ☎ (058)323-6010
岐阜県本巣郡北方町
高屋太子2丁目30高山 ☎ (0577)33-0613
高山市花岡町3丁目82三重 ☎ (059)255-1380
久居市森町字北谷
1920-3

沖 縄 地 区

沖縄 ☎ (098)877-1207 浦添市城間4丁目23-11

お手入れ

柔らかい布でふいてください。

ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

愛情点検

長年ご使用の AV コントロールアンプの点検を！



このような症状はありませんか

- 煙が出たり、異常なおい
- や音がある
- 音が出ないことがある
- 正常に動作しないことがある
- 商品に破損した部分がある
- その他の異常や故障がある

このような症状の時は使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	☎（ ）－	お買い上げ日	年 月 日
お客様 ご相談窓口	☎（ ）－	品 番	SA-DX930

松下電器産業株式会社 オーディオ事業部

〒 571-8505 大阪府門真市松生町 1 番 4 号

RQT5085-S

H0599V0 (D)